

平成30年度

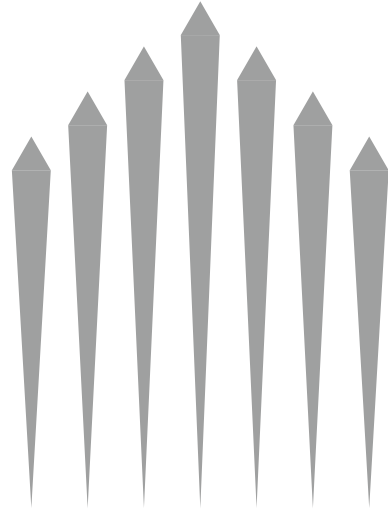
掛川市二の丸美術館

掛川市ステンドグラス美術館

年報

掛川市二の丸美術館

掛川市ステンドグラス美術館



平成30年度 二の丸美術館 展覧会一覧

No.	展覧会名	会期	日数	入館者数(人)		
				有料	無料	計
1	木下コレクション 工芸品をたのしむ - 小さなものみな美し -	4/1 ~ 4/15	15	911	262	1,173
2	木下コレクション・澤乃井櫛 かんざし美術館所蔵 男も女も装身具 - 煙草入れと櫛かんざし の美 -	4/21 ~ 6/24	62	4,309	2,383	6,692
3	永田 萌 - 夢みるチカラ -	7/7 ~ 9/2	55	2,974	2,042	5,016
4	掛川城と高知城 山内一豊と歴代城主 ゆかりの遺品	9/8 ~ 11/4	55	3,744	1,492	5,236
5	市民芸術祭優秀作品展 二の丸美術館 所蔵品展	11/10 ~ 12/9	29	91	3,414	3,505
6	白井嘉尚 シャーベットのよう そして森のなかへ 同時開催 アートカードであそぼう!	12/16 ~ 2/3	48	1,853	904	2,757
7	鈴木コレクション 日本画を愛でる - 美人画・花鳥画・風景 画 -	2/9 ~ 3/24	43	2,795	595	3,390
平成30年度 計			307	16,677	11,092	27,769



木下コレクション

工芸品をたのしむ - 小さなものみな美し

4月1日(日) ~ 4月15日(日)

当館収蔵品の「木下コレクション」の主軸ともなっている細密工芸品を中心に紹介しました。

細密工芸品とは、煙草入れや煙草盆・きせるなどの喫煙具をはじめとして、男性の洒落小物である印籠や華やかな女性の櫛かんざしなど、近世から近代にかけて愛でられた装身具を示します。これらは、生活の実用品であると同時に、自らを美しく装うためのアクセサリでもあり、そこには、より美しくより繊細な、そして、唯一無二の洒脱なデザインが求められました。また、技法的にも金銀を彩した蒔絵や繊細な彫金細工が施され、宝飾品さながらの美しさを持ち合わせています。

今回は、「小さなものみな美し」の精神のもと、日本人の美意識をもって作られた様々な作品をご覧頂くと同時に、ウニコール*根付約 200 点（榎林美喜男氏所蔵）も初公開し、希少性の高いウニコール作品が一堂に集結するまたとない機会にもなりました。

※ウニコールとは北極海に生息する海獣イッカクの牙で、経年変化による鉛色の風合いが美しく、江戸時代より様々な工芸品細工に用いられています。

【主要展示作品】

No	作品名	
1	浅葱地葡萄唐草栗鼠文更紗脇差したばこ入れ	二の丸美術館蔵
2	菊文尽くし螺鈿蒔絵印籠	二の丸美術館蔵
3	金唐革一つ提げたばこ入れ	二の丸美術館蔵
4	帯留(茄子・蓮花)	二の丸美術館蔵
5	芙蓉螺鈿蒔絵櫛	二の丸美術館蔵
6	白地唐花文金更紗一つ提げたばこ入れ	個人蔵
7	虎根付(銘 白籠)	個人蔵
8	粟穂図鏡蓋根付(銘 東明)	個人蔵
9	親子猿根付(銘 一光斎)	個人蔵
10	金唐革腰差したばこ入れ	個人蔵

第2回

男も女も装身具 - 煙草入れと櫛かんざしの美展 -

4月21日(土) ~ 6月24日(日)

当館開館20周年記念展として、収蔵品「木下コレクション」に澤乃井櫛かんざし美術館所蔵の櫛かんざしを添えて、総数約500点におよぶ細密工芸品の展覧会を開催いたしました。

澤乃井櫛かんざし美術館は、櫛かんざしを中心とした女性の装身具を専門とする美術館です。こちらの櫛かんざしを“女性の装身具”、当館の煙草入れを“男性の装身具”とし、双方で近世から近代における男女の装身具の世界をご覧頂きました。

手の平ほどの小さな世界に繰り広げられる職人技と粋なデザインには、単なる装身具というだけでなく、アクセサリーとして人々の美意識が凝縮されています。

煙草入れ・櫛かんざし双方を多くの方にご覧頂くことで、伝統工芸品の美しさだけでなく、日本文化や風習までご理解・再考頂く良い機会となりました。

【主要展示作品】

掛川市二の丸美術館「木下コレクション」：煙草入れ・きせる・きせる筒・火打石など約150点

澤乃井櫛かんざし美術館「櫛かんざしコレクション」：約350点（以下リスト）

No	作品名	点数
1	金銀珊瑚びらびら簪	21
2	京都島原大夫髪飾り一揃え	19
3	京都島原大夫豆髷	1
4	江戸吉原花魁豆髷	1
5	禿豆髷	1
6	家紋蒔絵櫛・簪・筭	
	①中輪に楓紋蒔絵籠甲櫛	1
	②唐草に蔦紋蒔絵櫛	1
	③胡蝶紋蒔絵籠甲櫛	1
	④大唐草に蔦紋蒔絵櫛	1
	⑤三つ葉葵紋蒔絵螺鈿櫛	1
	⑥竹林に蔦紋蒔絵櫛	1
	⑦丸に下り藤紋蒔絵籠甲櫛	1
	⑧下り藤紋象牙櫛・簪・筭	3
	⑨丸梅紋象牙櫛・筭	2
7	名取河波文様蒔絵櫛 (表)「名取河」宗守直斎(花押) (裏)「奥州名取河以埋木造之」	1
8	三種揃櫛	3

8	①三つ葉葵紋蒔絵櫛 三種揃	3
	②菊紋蒔絵櫛 三種揃	1
9	梅松月文様蒔絵螺鈿櫛 羊遊斎(花押)	1
10	蒔絵櫛	1
	①柳燕文様蒔絵櫛	1
	②時雨松漁夫図蒔絵櫛 羊遊斎	1
	③宝船富士山図蒔絵櫛	1
	④伊勢物語武蔵野図蒔絵櫛 中山胡珉作	1
	⑤京洛名所図蒔絵櫛 梶川(印)	1
	⑥白蔵主図蒔絵櫛 安明作之	1
	⑦浮舟図蒔絵櫛	1
	⑧柳橋水車文様蒔絵櫛 文龍斎	1
⑨柳燕文様蒔絵櫛 羊遊斎作	1	
11	抱一・羊遊斎、抱一・昇龍斎合作の櫛	
	①藪柑子文様蒔絵櫛 抱一筆・羊遊斎	1
	②萩文様蒔絵櫛 抱一筆・昇龍斎	1
12	象牙櫛・簪・筭	
	①梅花文様漆絵象牙櫛	1
	②山水図象牙櫛・筭	2
	③瓢箪文様蒔絵嵌装象牙櫛	1



12	④八橋図象牙櫛 道笑 (印)	1
	⑤南天雀文様蒔絵象牙櫛 寛哉	1
	⑥藤樹人物図透彫象牙櫛 道笑	1
	⑦桜花文様象牙櫛・簪・笄	3
	⑧桜狩図嵌装象牙櫛 芝山	1
	⑨市松宝尽し文様蒔絵象牙櫛 古満作	1
13	柳川櫛・笄	
	①雲鶴文様象牙柳川櫛	1
	②夕顔蝶文様象牙柳川櫛・笄	2
	③業平東下り図象牙柳川櫛	1
	④富士山日の出図象牙柳川櫛	1
	⑤桜花文様象牙柳川櫛	1
	⑥秋草文様象牙櫛 柳川	1
14	二枚櫛	
	①蜻蛉秋草文様蒔絵螺鈿象牙二枚櫛 芝	2
	②春日野図蒔絵二枚櫛 田付隆益	2
15	鼈甲櫛・簪・笄	
	①牡丹蜂文様蒔絵鼈甲櫛 巨満遠州作	1
	②新春風景図蒔絵鼈甲櫛 桃葉 (花押)	1
	③木賊兎文様蒔絵鼈甲櫛 文龍斎	1
	④麻の葉文様透彫鼈甲櫛・簪・笄	3
	⑤春雨飛燕図蒔絵鼈甲櫛 寛哉作	1
	⑥沢瀉虫文様蒔絵櫛 桃葉 (花押)	1
	⑦月雁芦文様蒔絵鼈甲櫛 寛哉写	1
	⑧歌留多文様蒔絵鼈甲節 胡民作之	1
	⑨雲錦文様蒔絵鼈甲櫛 桃葉 (花押)	1
16	月雁秋草文様蒔絵鼈甲櫛二種 羊遊斎	
	①月雁秋草文様蒔絵櫛 羊遊斎	1
	②月雁秋草文様蒔絵櫛 羊遊斎	1
17	海老文様ビードロ付真鍮櫛	1
18	紅櫛	
	①松鶴文様蒔絵紅櫛	1
	②雲鶴文様蒔絵紅櫛	1
19	芦鷺松林文様蒔絵瑠璃櫛・笄 雅扇	2
20	①勝山鬘実物大鬘	1
21	②秋田花嫁金簪セット	3
22	秋田花嫁鼈甲簪セット	2
23	蒔絵櫛・笄 明治時代	18
24	銀杏返し豆鬘 幕末～明治	1
25	蒔絵螺鈿鼈甲櫛 大正～昭和	12
26	金銀瑠璃びらびら簪	18

27	鷺文様蒔絵螺鈿櫛 法橋光琳 (印)	1
28	桜文様蒔絵櫛二種	2
	①桜花文様蒔絵櫛	1
	②桜樹文様蒔絵櫛 梶川 (印)	1
29	狐嫁入り図蒔絵櫛三種	
	①狐嫁入り図蒔絵櫛 羊遊斎	1
	②扇面狐嫁入り図蒔絵鼈甲櫛 春正作	1
	③梅狐嫁入り図蒔絵櫛	1
30	鶴脛骨蒔絵笄	6
31	南蛮文様蒔絵櫛	
	①南蛮人猿回し図蒔絵象牙櫛	1
	②南蛮人煙草吸い付け図蒔絵櫛	1
	③南蛮人遠眼鏡図蒔絵櫛	1
	④遠眼鏡図蒔絵鼈甲櫛	1
	⑤南蛮人図蒔絵嵌装瑠璃木地櫛	1
32	男女ペアルック櫛と印籠	
	①業平東下り図蒔絵櫛・印籠	2
	②日本地図文様蒔絵櫛・印籠	2
	③北斎富嶽三十六景図写し蒔絵櫛・印籠 巨満遠舟写	2
33	いち止、根掛け、鹿の子止	100
34	銀・真鍮平打簪	12
35	金銀瑠璃簪	10
36	鼈甲大簪	
	①翁飾り鼈甲大簪	2
	②牡丹飾り鼈甲大簪	1
	③鶴形鼈甲平打簪	1
	④菊慈童飾り鼈甲大簪	2
	⑤竹に雀飾り鼈甲大簪	1
	⑥吉祥飾り鼈甲大簪	1
	⑦菊花飾り鼈甲大簪	2
37	細簪	
	①銀細簪	10
	②鼈甲細簪	10
	③象牙細簪	10
38	平打簪	
	①乾隆ガラス平打簪	1
	②水晶平打簪	1
	③平打簪 大正時代	5
	④平打ち簪 昭和時代	5
39	洋髪用髪飾り	1

	洋髪用鼈甲簪	11
	洋髪用櫛	
	①洋髪用杜若文様透彫鼈甲櫛	1
	②洋髪用撫子文様蒔絵二枚櫛	2
	③洋髪用チューリップ文様透彫鼈甲櫛	1
40	変り型簪	14
41	仕掛け簪	13
42	玉簪	
	①玉簪 江戸時代	12
	②玉簪 明治時代	10
43	鼈甲・金銀珊瑚びらびら簪	
	①梅花久寿玉飾り鼈甲珊瑚びらびら簪	2
	②金銀珊瑚びらびら簪	2
	③瓢箪飾り鼈甲珊瑚びらびら簪	2
	④文明開化金銀珊瑚びらびら簪	2
	⑤松扇梅鳥籠飾り金銀珊瑚びらびら簪	1
	⑥日の出飾り金銀珊瑚びらびら簪	1
	⑦正月飾り金銀珊瑚びらびら簪	2
	⑧桐花飾り金銀珊瑚びらびら簪	2
44	筥迫・お細工物	18
45	お細工物	12
46	紅板	127
47	華鎖	31
48	油壺	17
49	元結、丈長	3箱
50	矢立	23
51	変り矢立	37
52	白麻地藤文様帷子 江戸時代	1
53	皇女和宮様衣装(打掛) 幕末	1
54	火事装束	
	①女性用頭巾	1
	②男性用羽織、胸当て	2
55	渦巻文様蒔絵櫛	1
56	金銀珊瑚飾り花櫛	1
57	銀珊瑚飾り花櫛	1
58	洋髪用鼈甲大櫛	1
59	洋髪用鼈甲大櫛	1
60	銀細簪	1
61	鼈甲細簪	1
62	象牙細簪	1
63	鏡台セット	1

64	角盥	1
65	手ぬぐい掛け	1
66	金銀珊瑚簪	1
67	春信風島田髷豆髷	1
68	おまた返し豆髷	1
69	隠れキリシタン象牙簪	1
70	隠れキリシタン象牙笄	1



第3回

永田 萌 - 夢みるチカラ -

7月7日(土) ~ 9月2日(日)

イラストレーター・絵本作家として活躍する永田萌氏の作品展を開催しました。永田萌氏は、扱いが困難なカラーインクを巧みに用いて色とりどりの花や愛らしい妖精を描き、画業40年を過ぎた現在も第一線で活動しています。

掛川市では、掛川市東山地区を中心に行われている茶草場農法が2013年に世界農業遺産に認定された際、これを題材にした絵本『ふわりとチャバ』を永田氏に制作いただきました。本展覧会では、カラーインク作品、近年取り組まれているアクリル絵具作品、絹絵などの作品に加え、掛川が舞台となった『ふわりとチャバ』の原画を初公開しました。

愛らしい妖精とみずみずしく透明感あふれる作品で、女性を中心に楽しんでいただく展覧会となりました。

第1展示室

No	作品名	制作年	材質・技法	展示期間
1	サンクチュアリ	2012年	アクリル、ガッシュ	全会期
2	初夏の旅立ち	2012年	アクリル、ガッシュ	全会期
3	夕映えの守護天使	2007年	絹・染料	全会期
4	静寂の刻	2007年	絹・染料	全会期
5	水	2005年	絹・染料	全会期
6	星の魚	2007年	絹・染料	全会期
7	雷童子	2007年	絹・染料	全会期
8	夕映えの木馬	2007年	絹・染料	全会期
9	夜明けの天使	2007年	絹・染料	全会期
10	新緑の森	2007年	絹・染料	全会期
11	喜びの朝	2012年	アクリル	全会期
12	明日への手紙	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期
13	夕焼け色のコンチェルト	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期
14	春の贈りもの	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期
15	風の翼	2012年	アクリル、ガッシュ	全会期
16	森の風韻	2012年	アクリル、ガッシュ	全会期
17	まどろみの午後	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期
18	朧夜の宴	2012年	アクリル	全会期
19	ミモザの森で	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期
20	たのしいロンド	2013年	アクリル、ガッシュ	全会期
21	星におやすみ	2012年	アクリル、ガッシュ	全会期
22	時のはざま	2011年	アクリル、ガッシュ	全会期

第2展示室

No	作品名	制作年	材質・技法	展示期間
23	『ふわりとチャバ』 粟ヶ岳	2015年	アクリル	全会期
24	『ふわりとチャバ』 春風	2015年	アクリル	全会期
25	『ふわりとチャバ』 ふわりとチャバ	2015年	アクリル	全会期
26	『ふわりとチャバ』 空からの茶畑	2015年	アクリル	全会期
27	『ふわりとチャバ』 茶草場	2015年	アクリル	全会期
28	『ふわりとチャバ』 一番茶摘み	2015年	アクリル	全会期
29	『ふわりとチャバ』 夏のササユリ	2015年	アクリル	全会期
30	『ふわりとチャバ』 カケガワフキバツタ	2015年	アクリル	全会期
31	『ふわりとチャバ』 夏のススキ	2015年	アクリル	全会期
32	『ふわりとチャバ』 秋の野花	2015年	アクリル	全会期
33	『ふわりとチャバ』 茶草場刈り	2015年	アクリル	全会期
34	『ふわりとチャバ』 冬の雪	2015年	アクリル	全会期
35	『ふわりとチャバ』 いっぶく処	2015年	アクリル	全会期
36	『クリコさんと笑わないクマ』 ワラクマ 青バック	2010年	カラーインク	全会期
37	『クリコさんと笑わないクマ』 店内	2010年	カラーインク	全会期
38	『クリコさんと笑わないクマ』 庭で朝食	2010年	カラーインク	全会期
39	『クリコさんと笑わないクマ』 店番	2010年	カラーインク	全会期
40	『クリコさんと笑わないクマ』 読書	2010年	カラーインク	全会期
41	『クリコさんと笑わないクマ』 アトリエ	2010年	カラーインク	全会期
42	『クリコさんと笑わないクマ』 散歩	2010年	カラーインク	全会期
43	『クリコさんと笑わないクマ』 野菜	2010年	カラーインク	全会期
44	『クリコさんと笑わないクマ』 居間	2010年	カラーインク	全会期
45	『クリコさんと笑わないクマ』 バジャマ	2010年	カラーインク	全会期
46	ジャングルブック	1992年	カラーインク	全会期
47	オズの魔法使い	1992年	カラーインク	全会期
48	しらゆきひめ	1998年	カラーインク	全会期
49	みにくいあひるのこ	1989年	カラーインク	全会期
50	『かぐやひめ』 かぐやひめ	1995年	カラーインク	全会期
51	『かぐやひめ』 竹取り	1995年	カラーインク	全会期
52	『かぐやひめ』 成長	1995年	カラーインク	全会期
53	『かぐやひめ』 結婚の条件	1995年	カラーインク	全会期
54	『かぐやひめ』 5人の皇子	1995年	カラーインク	全会期
55	『かぐやひめ』 打ち明ける	1995年	カラーインク	全会期
56	『かぐやひめ』 月の遣い	1995年	カラーインク	全会期
57	『かぐやひめ』 はごろも	1995年	カラーインク	全会期
58	『かぐやひめ』 天にかえる	1995年	カラーインク	全会期
59	花の協奏曲	1998年	カラーインク	前期
60	スイートピーだより	1996年	カラーインク	前期
61	なかよく雨やどり	1993年	カラーインク	前期
62	あじさい色の雨あがり	2006年	カラーインク	前期



63	アリスといっしょにお茶会へ	2010年	カラーインク	前期
64	ルピナスの調べ	1996年	カラーインク	前期
65	つゆくさの丘	2002年	カラーインク	前期
66	こねこの冒険	1988年	カラーインク	前期
67	とんがりぼうし	2007年	カラーインク	前期
68	なにしてあそぼ	1988年	カラーインク	前期
69	ひまわり畑で	1989年	カラーインク	前期
70	こすもす色の願いごと	1989年	カラーインク	前期
71	ゴールはどっち?	2002年	カラーインク	前期
72	天使のトランペット	2006年	カラーインク	前期
73	地球を守る子どもたち	1997年	カラーインク	前期
74	花ざかりのりんご	1999年	カラーインク	後期
75	鈴掛けの花	2002年	カラーインク	後期
76	かもめの水兵さん	2004年	カラーインク	後期
77	水辺の遊園地	2014年	カラーインク	後期
78	夜に語る花	2002年	カラーインク	後期
79	さあ、冒険だ	2007年	カラーインク	後期
80	銀朱色の夏	2000年	カラーインク	後期
81	白いパラソル	1996年	カラーインク	後期
82	きつねの嫁入り	2004年	カラーインク	後期
83	夢はなに色	1999年	カラーインク	後期
84	キュンキュンきのご組	2008年	カラーインク	後期
85	いそいで冬じたく	1985年	カラーインク	後期
86	さざんか抄	2001年	カラーインク	後期
87	胡蝶	2002年	カラーインク	後期
88	港街幻想	1996年	カラーインク	後期

第4回

掛川城と高知城 山内一豊と歴代城主ゆかりの遺品

前期 9月8日(土)～10月8日(月)

後期 10月10日(水)～11月4日(日)

当館の開館20周年を記念し、戦国武将山内一豊と太田侯や松平侯などの歴代城主ゆかりの作品を展示しました。

山内一豊は、豊臣秀吉の臣下として天正18年(1590)に掛川城に封入、10年間東海道の守り役を果たしました。関ヶ原の戦いでは徳川家康の東軍に加担、戦後は土佐20万石の大名へと出世しました。

江戸時代に入ると、掛川藩は様々な大名が入れ替わりますが、延享3年(1746)から明治維新まで、太田侯が安定して掛川藩を治めます。

太田侯の治世約120年間に、教養館・掛川藩校の設立、そこで指導に当たる教授として当時屈指の学者であった松崎慊堂を招聘、また谷文晁・渡辺崋山に学び、福田半香の師に当たる村松以弘をお抱え絵師とするなど、学問と文化が振興しました。

戦国時代の山内一豊の時代から、太田侯による学問・文化が開花した江戸時代までの掛川を紹介する展覧会となりました。

(1) 山内一豊と見性院

展示場所 (1)第1展示室 (2)第2展示室

No	資料名/作者・賛者など	時代	所蔵	前期	後期	展示場所
1	山内一豊肖像画/鉄山宗鈍賛	江戸時代慶長13年/1608	高知県立高知城歴史博物館	複製	複製	(1)
2	見性院肖像画/単伝井士印賛	江戸時代元和4年/1618	高知県立高知城歴史博物館	複製	複製	(1)
3	山内一豊像	江戸時代	高知県立高知城歴史博物館	○		(1)
4	山内一豊像	江戸時代	高知県立高知城歴史博物館		複製	(1)
5	見性院像	江戸時代	高知県立高知城歴史博物館	○		(1)
6	見性院像	江戸時代	高知県立高知城歴史博物館		複製	(1)
7	関ヶ原合戦図屏風	江戸後期	岐阜市歴史博物館	○		(2)
8	関ヶ原合戦図巻/遠坂仲雍筆	江戸後期	岐阜市歴史博物館		○	(2)
9	三段崎勘右衛門を討ち取りし図	近代	高知県立高知城歴史博物館	○	○	(1)
10	鎌(一豊に射こまれたと伝える鎌)	戦国～桃山	安芸市立歴史民俗資料館	写真パネル	写真パネル	(1)
11	軍配	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(1)
12	軍扇	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(1)
13	黒糸威七十六間小星兜	戦国～桃山	高知県立高知城歴史博物館	○	○	(1)
14	頭形兜	江戸時代初期	掛川市二の丸美術館	○	○	(1)
15	金箔押一枚鉄錫桃形兜(伝関ヶ原参加)	戦国～桃山	岐阜市歴史博物館	○	○	(1)
16	南蛮兜(烏帽子形)	戦国～桃山	岐阜市歴史博物館	○	○	(1)
17	十文字槍 銘 武州山城守国重	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(1)



(2) 掛川城主・山内一豊

18	豊臣秀吉領知宛行状写 山内一豊宛	(原本)戦国～桃山 天正18年(1590)9月20日	高知県立高知城歴史博物館	○		(1)
19	豊臣秀吉領知宛行状写 山内一豊宛	(原本)戦国～桃山 文禄4年(1595)7月15日	高知県立高知城歴史博物館		○	(1)
20	豊臣秀吉蔵入地目録写 山内一豊宛	(原本)戦国～桃山 文禄4年(1595)8月4日	高知県立高知城歴史博物館	○		(1)
21	山内一豊領知宛行状 五藤市左衛門宛	戦国～桃山 天正18年(1590)10月7日	安芸市立歴史民俗資料館	○	○	(2)
22	山内一豊還住許可判物 五藤市左衛門宛	戦国～桃山	個人	○	○	(2)
23	山内一豊寺領寄進状	戦国～桃山	慶雲寺	○	○	(1)
24	浅野長政書状 山内一豊宛	戦国～桃山 天正19年(1591)7月8日	高知県立高知城歴史博物館	○	○	(2)

特別展示 高天神兼明 刀剣・槍

25	大身槍(銘 高天神 兼明)	戦国～桃山	掛川市立大東図書館	○	○	(1)
26	槍(銘 高天神 兼明)	戦国～桃山	掛川市立大東図書館	○	○	(1)
27	短刀(銘 高天神 兼明)	戦国～桃山	個人	○	○	(1)

第2章 太田侯と掛川

(1) 江戸前期の掛川城主

No	資料名/作者・賛者など	時代	所蔵	前期	後期	展示場所
28	松平遠江守定吉像(県文化財)	江戸時代	真如寺	○		(2)

(2) 太田侯と学芸振興

29	白鹿洞書院図/福田半香筆	江戸後期	掛川市二の丸美術館	○		(2)
30	五倫口解	明治初期	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)
31	舊松尾藩学制沿革史概略	明治初期	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)
32	晨園記/松崎懺堂書	江戸(文化3年・1806)	掛川市(松ヶ岡)	○	○	(2)
33	松崎懺堂像草稿(1)/渡辺崋山筆	江戸時代	個人		○	(2)
34	松崎懺堂像草稿(2)/渡辺崋山筆	江戸時代	個人		○	(2)
35	松崎懺堂赦免建白書	江戸時代	田原市博物館		○	(2)
36	七言書/松崎懺堂書	江戸時代	常葉美術館	○		(2)
37	五言書/松崎懺堂書	江戸時代	常葉美術館		○	(2)
38	松崎懺堂詩三首	江戸時代	個人(佐都加文庫)	○		(2)
39	論学七絶二首五行書	江戸時代	田原市博物館		○	(2)
40	自照七絶	江戸時代	田原市博物館		○	(2)
41	懺堂先生臨素公千字文	江戸(天保2年・1831)	掛川市二の丸美術館	○		(2)
42	懷素草書千字文	江戸時代	個人		○	(2)
43	掛川誌稿	江戸時代	掛川市(松ヶ岡)	○		(2)
44	董法山水図/村松以弘筆	江戸時代	掛川市二の丸美術館		○	
45	白糸瀑図/村松以弘筆	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○		(2)
46	唐美人図/村松以弘筆	江戸時代	個人蔵		○	(2)
47	唐美人図/村松以弘筆	江戸時代	常葉美術館	○		(2)
48	秋景山水図/村松以弘筆	江戸時代	常葉美術館		○	(2)
49	宇洞山眺望図/村松以弘筆、太田資始画題、海野豫介識語	江戸時代	個人	○	○	(2)

50	百姓は種をたやすな…	江戸時代	個人(翠亭文庫)	○		(2)
51	遠州柏原百姓等へ徳川七ヶ条定書	江戸時代	個人	○	○	

(3) 山内家・太田家寄贈の大名道具

52	鞍	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)
53	鎧	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)
54	黒紅練緯地宝尽文様腰巻	江戸時代	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)

(4) 掛川城関連資料

55	かわらけ	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
56	金箔かわらけ	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
57	金箔貼り木器	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
58	白磁端反皿	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
59	染付碗	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
60	染付端反碗	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
61	染付端反皿	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
62	軒丸瓦	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
63	軒平瓦	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
64	丸瓦	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
65	鉄釉丸皿	戦国～桃山	掛川市埋蔵文化財センター	○	○	ロビー
66	掛川之図	江戸時代明暦2年～正徳元年 (1655～1711)	浜松市立高校	○	○	(2)
67	遠州掛川之城図	江戸(寛政元年・1789)	安芸市立歴史民俗資料館	○	○	(1)
68	遠江国掛川城御天守台石垣芝土手崩所 絵図	江戸(嘉永4年・1851)	掛川市二の丸美術館	○	○	(2)



市民芸術祭優秀作品展 二の丸美術館所蔵品展

11月10日(土)～12月9日(日)

「掛川市民芸術祭優秀作品展」と「二の丸美術館所蔵品～おもしろ楽しいアート展～」、「スケッチ画公募作品展」の3つの展覧会で構成し開催しました。

「二の丸美術館所蔵品～おもしろ楽しいアート展～」では、新しく当館に収蔵された現代根付のお披露目と、所蔵品より絵画、工芸品のジャンルを問わず「おもしろい」「楽しい」を主眼に選定した作品を展示し、見た目に愛らしい作品からユーモアあふれるモチーフが題材となったもの、見えないところまで工夫を凝らした作家の遊び心が感じられる作品をご覧頂きました。

「掛川市民芸術祭優秀作品展」では、絵画、彫刻・手工芸、写真、書道の4部門において高校生から一般まで優秀作品に選ばれた37点を展示しました。

ロビーを中心に展示した「スケッチ画公募作品展」では、「家族・友達の顔、動物、花」をテーマに公募した515点の作品が賑やかに並びました。

第1展示室

二の丸美術館所蔵品展

No	作品名	作者	制作年	材質・技法
1	過去・現在・未来(2)	長岡 宏	1977	アクリル・キャンバス
2	過去・現在・未来(1)	長岡 宏	1977	アクリル・キャンバス
3	過去・現在・未来	長岡 宏	1977	アクリル・キャンバス
4	三井ビル	長岡 宏	1975	アクリル・キャンバス
5	娘道成寺	庄司 明幹	2015	象牙
6	バンドの親子	工藤 道齋	2017	鹿角
7	団栗	三代 宮澤良舟	1986	象牙
8	ペルシャ猫	阿部 賢次	1977	象牙
9	恐竜誕生	中村 和明	2011	黄楊
10	鬼面形根来塗りとんこつ腰差したばこ入れ		幕末～明治	
11	達磨形とんこつ一つ提げたばこ入れ		幕末～明治	
12	鬼面形とんこつ一つ提げたばこ入れ		幕末～明治	
13	布袋面形とんこつ一つ提げたばこ入れ		幕末～明治	
14	猿蟹合戦図象嵌とんこつ一つ提げ		明治	
15	網代に鼠図罫		明治	
16	雨縞織木綿腰差したばこ入れ		明治	
17	網代編み文とんこつ一つ提げたばこ入れ		明治	
18	髑髏形とんこつ腰差したばこ入れ		明治	
19	竹見立て塗りとんこつ腰差したばこ入れ		明治	
20	青海波文縫潰懐中たばこ入れ		明治	
21	雲龍文縫潰提げがま口		明治	

第2展示室

市民芸術祭優秀作品展

絵画

No	部門	賞	作品名	氏名
1	—	審査員	マドレーヌの丘	中嶋 明
2	一般	市長賞	初夏	高島 昭子
3		教育長賞	初馬風景	山内 早苗
4		文化協会長賞	王様と仲間達	伊奈 卓己
5		奨励賞	遠望 市房山 (イチフサヤマ)	土屋 洋一郎
6		奨励賞	思い出のフィレンツェ	戸田 八重美
7		奨励賞	よしゑさん	溝口 ふさよ
8	高校	市長賞	Feeling -心境-	堀 芳江
9		教育長賞	夢	小川 彩奈
10		文化協会長賞	伊勢海老	杉山 世佳
11		奨励賞	落雷	石川 鈴華
12		奨励賞	自由になりたい猫	中嶋 佑花
13		奨励賞	神の遣い	鈴木 紫穂
14		奨励賞	フラミンゴ	浅井 彩花

彫刻・手工芸

No	部門	賞	作品名	氏名
15	一般	市長賞	ずりもの イマメ美術	菊池 正成
16		教育長賞	夕映え (さき織り作品)	戸塚 厚子
17		文化協会長賞	江戸情緒の屋形船	竹中 進

書道

No	部門	賞	作品名	氏名
18	—	審査員	明詩三首	田代 香桃
19	一般	市長賞	鄭作詩	伊東 丹稜
20		教育長賞	小夜の中山	笠原 毬矢
21		文化協会長賞	范路詩	寺澤 輝子
22		奨励賞	無題	井芹 義則
23		奨励賞	叙賁詩	藤岡 典子
24		奨励賞	萩原朔太郎の詩	尾崎 弘子
25	高校	市長賞	風林火山	戸塚 菜々恵
26		教育長賞	臨 文徵明 行書詩卷	木野 あずさ
27		文化協会長賞	集字聖教序	横山 葵
28		奨励賞	臨書 張遷碑	石田 くるみ
29		奨励賞	臨書 孫過庭 書譜	糸川 美紅
30		奨励賞	創作	大嶋 佑



写真

No	部門	賞	作品名	氏名
31	—	審査員	地下道	薩川 高宏
32	一般	市長賞	ディスク・ドッグ	稲葉 一広
33		教育長賞	永久(とわ)にかがやきを	栗山 一夫
34		文化協会長賞	いやな予感	萩田 昇
35		奨励賞	ポリネーター(送粉者)	鈴木 和夫
36		奨励賞	水田を走る	後藤 正徳
37		高校	市長賞	生きる山
38	教育長賞		ひとり	安本 璃玖
39	文化協会長賞		白鷺	松永 悠馬
40	奨励賞		芝桜	原 杏里

第6回

白井嘉尚 シャーベットのよう、そして森のなかへ
同時開催 アートカードであそぼう！

12月16日(日)～2月3日(日)

白井嘉尚しらいよしひさ氏は昭和28年静岡県下田市出身の現代美術家で、昭和54年東京芸術大学大学院修士課程を卒業し、静岡大学教育学部・地域創造学環で教授として絵画の指導に当たりながら、平成25年より文化庁助成によるアートマネジメント人材育成事業や、その一環として始まった美術展「めぐりアート静岡」など、アートに関わる人材の育成や現代作家の作品を静岡から発信するプロジェクトに携わりました。

本展覧会では、1980年代から現在に至る、「フリー・ジグソーパズル」「シャーベットのよう」「版によるドローイング」「森のなかの花」の各シリーズを網羅的に紹介しました。白井氏の大学院卒業前後の作品から現在に至るまでのシリーズ作品の変遷より、アートに対する真摯な制作への姿勢や、それを広く親しんでもらおうとする多彩な試みを俯瞰できる機会となりました。

また、アートカードとは、美術館や学校教育現場で使われているカード型の鑑賞教育ツールで、二の丸美術館ではキッズアートプロジェクトの支援を得て、平成28年度に掛川市ステンドグラス美術館、浜松市秋野不矩美術館・常葉美術館と共同でオリジナルのアートカードを制作しました。

近年、若者を中心に人狼ゲームなどのアナログゲームが流行っています。現代を取り巻く多くのものがデジタルやバーチャルに向けて進化する中で、毎年多くのアナログゲームが発表され続けています。その根強い人気の秘訣は人との関わりにあるようです。ゲームを通して人と顔を合わせるからこそ、笑顔が生まれる楽しさや大切さに、改めて気づかされます。

本展覧会では、アートカードを利用してカードゲームを楽しみながら、実際にカードの中に紹介されている工芸品や浮世絵の本物を見ることができる、またとない機会となりました。

期間中は展示室内をおしゃべりができる、トークフリーの空間にし、家族連れのお客様などが楽しく遊ぶ姿が印象的な展示となりました。

No	作品名	制作年	素材	寸法 (cm)
1	シャーベットのよう	1986	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	700 × 300
2	ノイズバイブレーション	1986	塩化ビニール板・油性ペイント	244 × 190 × 5
3	シャーベットのよう	1987	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	110 × 130
4	シャーベットのよう	1988	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	110 × 130
5	シャーベットのよう	1988	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	110 × 130
6	シャーベットのよう	1988	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	110 × 130
7	シャーベットのよう	1989	パルプ・黄ボール紙・塩化ビニール板・ポスターカラー・油性ペイント	130 × 110
8	森のなかの花	2001-2018	MO紙に木炭・水性インク・パステル他	56 × 76
9	版によるドローイング	1990.9.22	モノタイプ・MO紙に銅版インク	39.3 × 48
10	版によるドローイング	1990.9.28	モノタイプ・MO紙に銅版インク	39.3 × 48
11	版によるドローイング	1990-1997	モノタイプ・MO紙に銅版インク	25.5 × 29



同時開催 アートカードであそぼう！

- 《秋の実り》竹内栖鳳
- 《萌春》東山魁夷
- 《りんご》福田平八郎
- 《有平縞更紗腰差したばこ入れ》
- 《金唐革一つ提げたばこ入れ》
- 《虫づくし図象嵌とんこつ一つ提げたばこ入れ》
- 《きせる各種》
- 《御簾に牡丹蝶図蒔絵手付きたばこ盆》
- 《源頼政鶴退治図蒔絵印籠》
- 《櫛かんざし各種》
- 《桐鳳凰図鐔》
- 《東海道五十三次之内掛川秋葉山遠望》
- 《美艷仙女香》
- 《懐中たばこ入れ各種》
- 《鐔各種》
- 《たばこ入れ各種》
- 《御伽犬》
- 《螺鈿細工茶入れ》 など

第7回

鈴木コレクション

日本画を愛でる -美人画・花鳥画・風景画-

2月9日(土)～3月24日(日)

開館20周年記念事業を締めくくる展覧会として当館が所蔵する鈴木始一コレクションより近代日本画を展示しました。鈴木コレクションは、故鈴木始一氏より昭和54年に掛川市に寄贈された日本画のコレクションで、明治から大正・昭和の各時代を代表する巨匠が名を連ねていることが大きな特徴です。明治時代以降の日本の美術界では、文展や帝展など国が主宰する展覧会が開催されるとともに、在野でも大小さまざまな美術団体が結成され、伝統美術を基礎としながらも西洋絵画を吸収した新しい日本画が誕生し、活気ある創作活動が行われました。横山大観、竹内栖鳳、川合玉堂、速水御舟、川端龍子、前田青邨、東山魁夷など、明治から昭和にかけて日本画壇を牽引した画家たちの作品を通じて、初春に日本の美に触れる展覧会として開催しました。

第1展示室

No	作品名	作者	制作年	材質・技法
1	鶉飼	川合 玉堂	1933年頃	絹本着色、軸装
2	夕月	川合 玉堂	1931年頃	絹本着色、軸装
3	海嘯	横山 大観	制作年不詳	紙本着色、軸装
4	柿実餞鴉図	竹内 栖鳳	1901年	紙本水墨、軸装
5	枯木寒鴉図	竹内 栖鳳	1901年	紙本水墨、軸装
6	早春	奥村 土牛	1951年頃	紙本着色、額装
7	双鯉	堅山 南風	制作年不詳	紙本着色金泥、額装
8	金魚	奥村 土牛	1951年頃	紙本着色、額装
9	鳩	高山 辰雄	昭和30年代	絹本着色、額装
10	生果競甘	岸田 劉生	1926年	紙本着色、額装

第2展示室

No	作品名	作者	制作年	材質・技法
11	鏡獅子	伊東 深水	1940年頃	絹本着色、軸装
12	初夏の花	結城 素明	制作年不詳	絹本着色金泥、軸装
13	宋三彩劃花壺	山村 耕花	1921年	絹本着色、軸装
14	罌粟	山村 耕花	制作年不詳	絹本着色、軸装
15	桜	前田 青邨	制作年不詳	絹本着色、軸装
16	聖夜	川端 龍子	1941年	絹本墨画、軸装
17	赤城路之巻	速水 御舟	1916年頃	紙本着色、額装
18	滝	大村 素峰	制作年不詳	漆絵、額装
19	富士	大村 素峰	制作年不詳	漆絵、額装
20	狩の雨	川端 龍子	制作年不詳	紙本着色、額装
21	秋の山	小野 竹喬	1950年頃	絹本着色、額装



22	浅春	東山 魁夷	制作年不詳	絹本着色、額装
23	猫柳	福田 平八郎	昭和 20 年代	紙本着色、額装
24	壺	前田 青邨	制作年不詳	紙本着色、額装
25	桔梗	前田 青邨	制作年不詳	紙本着色、額装
26	洋壺	小倉 遊亀	1958 年	紙本金地着色、額装
27	カトリア	堅山 南風	制作年不詳	絹本着色、額装
28	花	北澤 映月	制作年不詳	紙本着色、額装

二の丸美術館 教育普及活動

1 写生大会

題名	「掛川城公園を描こう！」
日時	9月17日（月・祝） 午前9時30分～午後3時
会場	掛川城公園周辺
講師	二紀会準会員・日本美術家連盟会員 山城道也
対象	どなたでも
参加者	62人
内容	掛川城公園内で現在活躍中の作家からアドバイスを受けながら写生を行った。
展示	10月21日（土）～11月4日（日）美術館ロビーに展示

2 スケッチ講座

日時	6月10日（日） 午後1時30分～午後4時
会場	生涯学習センター工作室
講師	二紀会準会員・日本美術家連盟会員 山城道也
対象	どなたでも
参加者	28人
内容	鉛筆、水彩絵の具などで、果物などの静物をスケッチし、描き方について講師から指導をうけた。

3 スケッチ画公募作品展

テーマ	家族・友達の顔・動物・花
募集	9月20日（木）～10月20日（土） 応募者 市内小中学校500枚、市外小学校2枚、一般13枚 合計515枚
表彰	小・中学生・一般の部応募作品・・・市長賞、教育長賞を選考。全員に参加賞。 表彰式 11月10日（土）午前10時から 受賞者 28名
展示	11月10日（土）～12月9日（日） 全応募作品を「掛川市民芸術祭優秀作品展」の期間中美術館内に展示

4 展覧会関連事業

事業名	新緑の園遊会「櫛かんざしと新茶のおもてなし」
日時	4月29日（日・祝） 午前10時～正午
会場	二の丸美術館・竹の丸座敷
講師	澤乃井櫛かんざし美術館館長 小澤徳郎
参加者	20人

題名	「山内一豊と掛川城」
日時	9月16日（日） 午後1時30分～午後3時
会場	大日本報徳社大講堂
講師	静岡大学名誉教授 小和田哲男
参加者	121人

題名	「日本刀の魅力」
日時	10月21日（日）午後1時～午後3時
会場	大日本報徳社大講堂
講師	（公財）佐野美術館館長 渡邊妙子
参加者	53人

5 小中学校図工美術主任研修会

日時	1月17日（木）午後3時～午後4時30分
内容	ヨーロッパのステンドグラスとアメリカのステンドグラス
講師	掛川市ステンドグラス美術館顧問 志田政人
会場	生涯学習センター第2会議室
参加者	24人

6 学校連携事業

日時	6月18日（月）・20日（水）・9月11日（火）・21日（金）・1月18日（金） 1月25日（金）
内容	学校へ出前講座を実施し、アートカードなどを使って鑑賞教育の手助けとなるよう行う
講師	学芸員
会場	掛川市立東中学校、掛川市立横須賀小学校、掛川市立栄川中学校
参加者	223人



二の丸美術館・ステンドグラス美術館 講座等事業一覧

事業名	草間顧問によるステンドグラスちょこっと体験
日時	5月13日(日)・8月6日(月)・12月23日(日)・24日(月・祝) 2月10日(日)・11日(月・祝) 午前11時～ 午後2時～
会場	ステンドグラス美術館
講師	草間幸子
参加者	135人

事業名	ステンドグラス写真パネル展
日時	6月16日(土)～6月30日(土)
会場	大須賀中央公民館 ロビー

事業名	ステンドグラス体験講座(一般教室)
日時	7月28日(土)～30日(月)・3月9日(土)～11日(月)
会場	竹の丸ギャラリー
講師	志田政人・草間幸子
参加者	34人

事業名	ステンドグラス体験講座(小中高生教室)
日時	8月4日(土)、5日(日)・10月13日(土)、14日(日)・11月3日(土)、4日(日)・ 1月19日(土)、20日(日) 午前9時～ 午後1時～
会場	竹の丸ギャラリー
講師	志田政人・草間幸子
参加者	109人

事業名	週末♪ミュージアムminiコンサート
日時	5月20日(日)・8月12日(日)・11月17日(土)・3月17日(日) 午後2時～午後2時30分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	掛川市民オーケストラ
参加者	105人

事業名	ステンドグラス写真パネル展
日時	10月2日(火)～18日(木)
会場	文化会館シオーネ 展示ロビー



事業名	クリスマスミュージアムコンサート
日時	12月8日（日） 午後7時～午後7時45分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	八木香那永（声楽）・原 大介（ギター）
参加者	35人

事業名	ナイトミュージアム
日時	12月1日（土）、2日（日）、7日（金）～9日（日）、14日（金）～16（日）、 21日（金）～24日（月） 午後5時30分～午後8時
会場	ステンドグラス美術館

事業名	SPRINGナイトミュージアム
日時	3月1日（金）、2日（土）、3月9日（土）、16日（土）、17日（日）、3月23日（土）、 24日（日） 午後5時30分～午後8時
会場	ステンドグラス美術館

事業名	SPRINGミュージアムコンサート
日時	3月30日（土） 午後7時～午後7時45分
会場	ステンドグラス美術館
出演者	華井景子（ハンマーダルシマー）・石原弥江子（ハンマーダルシマー）
参加者	44人

調 査 研 究 活 動

1 館蔵資料保存・整理の状況

(1) 資料の収集

平成30年度末までに収集した資料は、3,279点にのぼる。

二の丸美術館では、美術資料とともに歴史資料の収集も行っており、所蔵資料の範囲は多岐にわたる。

資料の一層の充実をめざして、今後とも継続・計画的な資料収集を行う。

(2) 資料の範囲・方針

収集に当たっての基本的方針は次のとおりである。

- 掛川市出身作家および掛川市ゆかりの作品
- たばこ及びたばこ道具、細密工芸品に関する資料、作品
- 掛川城・高天神城・横須賀城に関する資料
- 掛川宿、日坂宿に関する資料
- その他

資料の収集方法は、寄贈の受け入れ、購入、寄託の受け入れなどである。

(3) 資料の管理

展示や研究などの美術館活動の基本となる資料は、市民の財産として永く後世に伝えなければならないが、一方では常に活用できるような状態にしておくことも必要である。

(4) 資料の保存

年間を通じて温湿度を一定に保った収蔵庫を2ヶ所設置し、一方では絵画を、もう一方では工芸品を収納し、それぞれの材質に適した空調を行っている。

光や温湿度の変化に注意を要する資料は、収蔵庫から出す期間をできるだけ短くし、外部環境からの影響をできるだけ小さくするようにしている。また、害虫やカビの発生を防止するため、毎年収蔵庫の燻蒸を行っている。

(5) 資料の修復

収蔵資料で汚損や劣化が激しいものは、専門家による修復を行っている。

(6) 資料の分布

収蔵品の中核となる木下コレクションは、総数2,300点余りと膨大な量で、内容もたばこ道具、刀装具、櫛、筭、印籠など多岐にわたり、現在も整理を行っている。

コレクションのうち、約800点がたばこ入れであるが、たばこ入れは染色・漆芸・金工・皮革など様々な技法を用いているので新たな分類方法が必要となった。そのため独自の分類方法を試みている。



新収蔵品資料

絵画・資料

No	資料名	数	形態等	寸法 (cm)	備考
1	《鶴図》村松以弘	1	紙本墨画、軸装	108.0 × 35.0	寄贈
2	《五倫口解》	1	紙本、冊子	27.0 × 19.5	購入

工芸品

No	資料名	数	制作年	材質・意匠	備考
1	煙草道具	1	江戸後期	竹に雀図芝山細工羅字きせる	購入
2	煙草道具	1	江戸後期	きせる筒 (はしー：橋本市蔵 作)	購入
3	煙草道具	1	明治時代	螺鈿細工腰差したばこ入れ	購入
4	簪	1	江戸後期	鼈甲製／団扇飾り	購入
5	簪	1	江戸後期	鼈甲・象牙製／剣玉飾り	購入
6	簪	1	江戸後期	真鍮・金製／宝珠吉祥飾り	購入
7	簪	1	明治時代	真鍮金銀製／唐花珊瑚飾り	購入
8	簪	1	明治時代	真鍮・金銀製／トンボ玉	購入
9	簪	1	明治時代	真鍮・銀製／珊瑚玉	購入
10	簪	1	明治時代	真鍮製／赤石・吉祥文彫り	購入
11	簪	1	江戸後期	真鍮銀銅製／吉祥印籠飾り	購入
12	簪	1	江戸後期	銅製／方位磁石飾り	購入
13	簪	1	江戸後期	銅・銀製／土筆飾り	購入
14	簪	1	江戸後期	真鍮製／矢羽飾り	購入
15	簪	1	江戸後期	真鍮製／蛤飾り	購入
16	簪	1	明治時代	銀製色絵鍍金／珊瑚玉	購入
17	簪	1	江戸後期	真鍮・銀製／松ぼっくり飾り	購入
18	簪	1	江戸後期	鼈甲製／葵葉飾り	購入
19	簪	1	明治時代	真鍮金銀珊瑚製／花飾り	購入
20	簪	1	明治時代	真鍮・鍍金	購入
21	簪	1	明治時代	真鍮金銀珊瑚製／吉祥飾り	購入

資料貸出

No	資料名	作者	数	貸出期間	貸出先	展覧会名等
1	掛川教育植物園之図 (※寄託資料)	小山汪水	1	6/19(火) ～7/3(火)	掛川市立 中央図書館	「報徳図書館開館90周年記念展 掛川に図書館ができた日」 6/21(木)～7/1(日)
2	鏡獅子	伊東深水	1	6/27(水) ～9/8(土)	平野美術館	「近代美人画～描かれた女性たち に託された秘密～」 7/7(土)～9/2(日)
3	麦秋	桑原喜八郎	1			
4	三河万歳図屏風	大久保一丘	1	10/26(金) ～10/29(月)	遠州横須賀倶楽部・ 掛川観光協会大須 賀支部	「第20回遠州横須賀街道ちっちゃ な文化展」 10/26(金)～10/28(日)
5	菅公童子立像	二代豊川光長	1	11/13(火)～ 平成31年 2/20(水)	練馬区立美術館	「人間国宝・桂盛仁 金工の世界～江戸彫金の技～」 12/1(土)～平成31年2/11(月)
6	月に鹿彫りさせる筒	二代豊川光長	1			
7	菊慈童	桂光春	1			
8	横須賀 屏 全国のミニ屏		10	12/27(金)～ 平成31年1/16 (火)	掛川城公園管理事 務所	掛川城御殿での展示 12/28(土)～平成31年1/15(火)
9	掛川城ジオラマ		1	平成31年 3/13(水)～ 3/26(火)	掛川市立 中央図書館	「東海の名城展」 平成31年3/14(木)～3/24(日)

印刷物作成状況

名称	規格	数量
木下コレクション - 小さきものみな美し -	チラシ	200 枚
	ポスター	10,000 枚
木下コレクション 澤乃井櫛かんざし美術館所蔵 男も女も装身具 - 煙草入れと櫛かんざしの美 -	チラシ	10,000 枚
	ポスター	400 枚
永田萌 - 夢みるチカラ -	チラシ	10,000 枚
	ポスター	300 枚
掛川城と高知城 山内一豊と歴代城主ゆかりの遺品	チラシ	12,000 枚
	ポスター	300 枚
掛川市民芸術祭優秀作品展 二の丸美術館所蔵品展	チラシ	5,000 枚
	ポスター	150 枚
白井嘉尚 個展 ～シャベットのよう、そして森のなかへ～	チラシ	10,000 枚
	ポスター	300 枚
	図録	100 部
鈴木コレクション 日本画を愛でる - 美人画・花鳥画・風景画 -	チラシ	8,000 枚
	ポスター	150 枚
年間スケジュール	A4 三つ折り	10,000 枚



管理運営

1 入館者数統計

【年度別】

掛川市二の丸美術館

区分 年度	開館 日数	有 料 入 館 者 数				無料入館者数		計	1日 平均
		美術館のみ		美術館・掛川城セット		大 人	小 人		
		大 人	小 人	大 人	小 人				
10	276	8,039	480	26,820	2,194	12,978	2,319	52,830	191
11	270	6,752	281	24,342	1,612	2,887	1,052	36,926	137
12	273	6,473	159	22,125	1,500	3,467	1,451	35,175	129
13	275	5,110	98	22,395	1,483	2,994	1,302	33,382	121
14	277	5,266	107	19,846	1,477	7,103	1,456	35,255	127
15	273	4,553	110	21,520	1,405	5,953	1,512	35,053	128
16	268	3,967	462	20,926	1,684	9,496	2,921	39,456	147
17	280	4,611	79	35,706	1,553	17,888	4,237	64,074	229
18	304	5,864	145	81,054	2,739	19,092	3,762	112,656	371
19	270	3,428	101	20,368	1,208	13,502	3,093	41,700	154
20	269	5,798	104	23,275	1,572	5,140	1,181	37,070	138
21	267	4,597	107	20,743	1,176	5,437	1,332	33,392	125
22	268	3,105	82	17,596	617	5,294	2,313	29,007	108
23	268	2,703	82	19,084	1,526	4,163	1,183	28,741	107
24	276	2,538	52	17,160	1,324	4,740	1,062	26,876	97
25	273	2,711	68	13,720	727	4,261	1,639	23,126	85
26	272	2,602	35	7,408	467	4,068	1,277	15,857	58
27	272	4,112		3,871		4,068	1,277	23,510	86
28	289	5,431		8,048		4,766	3,467	21,712	75
29	285	8,906		9,616		5,445	4,282	28,249	99
30	307	6,892		9,785		6,022	5,070	27,769	91

掛川市ステンドグラス美術館

区分 年度	開館 日数	有 料 入 館 者 数				無料入館者数		計	1日 平均
		美術館のみ		美術館・掛川城セット		大 人	小 人		
		大 人	小 人	大 人	小 人				
27	256	28,662		12,443		4,858	6,247	52,210	203
28	323	15,809		9,467		3,153	5,387	33,816	104
29	317	10,809		9,524		4,155	5,517	30,005	95
30	359	10,928		9,149		2,393	4,917	27,387	76

【平成 30 年度月別】

掛川市二の丸美術館

月	開館 日数	有料入館者数									無料入館者数		計	1日 平均
		美術館	美・城		美・ス		美・城・ス		美・城・ス・竹		大人	小人		
		大人	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体				
4月	24	621	414	87	79	20	232	100	32	15	267	278	2,145	89
5月	30	787	581	100	100	32	310	95	30	28	200	621	2,884	96
6月	23	455	186	122	89	63	173	381	39	49	389	890	2,836	123
7月	24	442	138	24	41	28	99	45	40	9	186	451	1,503	63
8月	29	913	351	63	85	97	271	61	39	5	517	735	3,137	108
9月	24	763	424	71	48	27	226	56	29	17	402	412	2,475	103
10月	29	818	441	79	50	16	265	271	61	37	275	438	2,751	95
11月	24	210	53	8	26	9	34	10	6	3	2,204	397	2,960	123
12月	24	158	147	24	20	2	105	26	6	2	1,000	243	1,733	72
1月	30	396	329	88	25	21	173	81	23	12	212	245	1,605	54
2月	22	522	250	71	42	14	151	54	29	32	202	191	1,558	71
3月	24	807	374	90	102	57	232	104	36	43	168	169	2,182	91
計	307	6,892	3,688	827	707	386	2,271	1,284	370	252	6,022	5,070	27,769	91

掛川市ステンドグラス美術館

月	開館 日数	有料入館者数							無料入館者数		計	1日 平均
		美術館	美・城		美・ス		美・城・ス		大人	小人		
		大人	一般	団体	一般	団体	一般	団体				
4月	29	858	293	101	79	20	232	100	216	327	2,226	77
5月	31	1,144	339	104	100	32	310	95	159	602	2,885	93
6月	29	863	289	71	89	63	176	381	386	870	3,188	110
7月	31	571	171	38	41	28	99	45	133	401	1,527	49
8月	30	1,089	294	84	83	97	271	61	400	663	3,042	101
9月	30	825	183	65	48	27	226	56	141	281	1,852	62
10月	30	1,150	215	96	50	16	265	273	151	347	2,563	85
11月	30	923	403	127	26	9	34	10	141	300	1,973	66
12月	30	757	303	99	19	2	105	26	177	262	1,750	58
1月	31	544	198	75	23	21	175	83	119	275	1,513	49
2月	27	676	212	123	40	14	151	54	139	186	1,595	59
3月	31	1,528	455	151	102	63	236	104	231	403	3,273	106
計	359	10,928	3,355	1,134	700	392	2,280	1,288	2,393	4,917	27,387	76

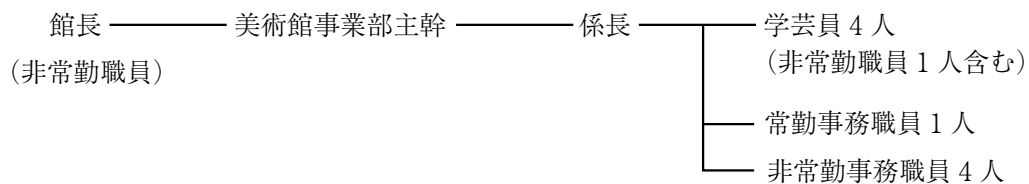
【平成 30 年度展覧会別】

掛川市二の丸美術館

展覧会名		木下コレク ション	澤乃井櫛か んざし	永田萌	掛川城と 高知城	市民芸術祭	白井嘉尚	鈴木コレク ション	30 年度 合計
開催期間		4/1-4/15	4/21-6/24	7/7-9/2	9/8-11/4	11/10-12/9	12/16-2/3	2/9-3/24	
開催日数		15 日	62 日	55 日	55 日	29 日	48 日	43 日	
個人	美術館のみ	199	639	657	695	0	355	646	3,191
	美割	82	359	163	287	0	141	224	1,256
	美術館・掛川城	246	935	511	896	0	506	595	3,689
	美術館・スタンド (OKワーク)	56	212	133	117	0	53	139	710
	美術館・掛川城・ スタンドグラス	128	587	393	502	0	293	364	2,267
	周遊券	15	86	81	94	0	37	57	370
	個人合計	726	2,818	1,938	2,591	0	1,385	2,025	11,483
団体	美術館 (市町村含む)	61	129	361	201	0	86	105	943
	美術館・掛川城	50	259	92	153	0	120	151	825
	美術館・スタンド	6	109	137	40	0	28	68	388
	美術館・掛川城・ スタンドグラス	57	519	119	324	0	118	147	1,284
	周遊券	11	81	16	55	0	16	73	252
	まる得パスポート	0	394	295	218	91	100	225	1,323
	親子鑑賞券			16					16
	ポップカルチャー				157	0			157
	茶エンナーレ					0			0
	じゃらん	0	0	0	5	0	0	1	6
	団体合計	185	1,491	1,036	1,153	91	468	770	5,194
	有料入館者合計	911	4,309	2,974	3,744	91	1,853	2,795	16,677
無料入館者	一般無料入館者	0	189	214	0	2,970	0	0	3,373
	二の丸友の会	5	11	0	0	0	0	0	16
	中学生以下	127	1,662	1,257	841	444	423	316	5,070
	減免(引率者等)	35	159	83	64	0	58	39	438
	減免(身障者)	62	268	249	239	0	149	160	1,127
	招待状	33	94	239	348	0	274	80	1,068
	無料入館者合計	262	2,383	2,042	1,492	3,414	904	595	11,092
入館者数合計	1,173	6,692	5,016	5,236	3,505	2,757	3,390	27,769	
一日平均人数	78	108	91	95	121	57	79	90	
入館券売上(円)	120,140	519,680	399,390	466,550	9,100	232,550	364,600	2,112,010	

2 組織・決算

(1) 機構（平成30年4月1日現在）



(2) 美術館協議会委員 任期 2 年 平成 29 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日

氏名	職業等
堀澤 光栄	前姫路市書写の里・美術工芸館館長
眞家 恵子	資生堂アートハウス館長
石田 伸吾	(株)静岡新聞社・静岡放送(株)浜松総局長
安村なおみ	掛川市社会教育委員
山田 英子	掛川市立大淵小学校校長
西川しげこ	静岡県書道連盟掛川菊川御前崎支部長
永田 稔男	掛川市文化協会副会長兼大須賀支部長
石津たつ子	掛川の現代美術研究会役員

(3) 平成30年度決算

●市決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館費雑入	828
計	828

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
美術館協議会運営費	28
美術館運営費	59,142
二の丸美術館管理費	2,895
計	62,065

●二の丸美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	59,142
入館料	2,415
物販手数料収入	124
講座等開催収入	65
特定費用取崩収入	2,159
計	63,905

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
1 給与費	31,304
2 管理運営費	21,908
3 美術館活動費	10,693
(1) 企画展(展覧会)	(10,548)
(2) 教育普及費(講座)	(145)
計	63,905

●ステンドグラス美術館決算

収入 (単位：千円)

区 分	金 額
指定管理料	23,543
入館料	8,443
物販手数料収入	56
講座等開催収入	143
計	32,185

支出 (単位：千円)

区 分	金 額
1 給与費	23,847
2 管理運営費	7,920
3 講座開催費	418
計	32,185

3 平成30年度 掛川市二の丸美術館及び掛川市ステンドグラス美術館協議会

【第1回】 2月26日(火) 掛川市立図書館会議室B

- ・平成30年度の事業実績等について
- ・平成31年度の事業計画(案)について

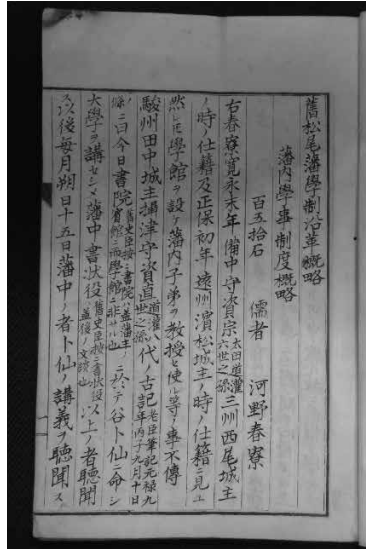
【翻刻】

舊松尾藩學制沿革概略

一冊

縦二四、五cm 横一六、五cm

近代（明治一六年 一八八三）頃
袋綴装、四六丁（表紙とも92頁）



【解説】

（巻頭）（太田松子氏寄贈）

この写本は題名通り、「舊松尾藩」すなわち「掛川藩校」の学制その他について記したものである。

掛川藩校については明治十六年二月、文部省が教育沿革史作成のために各府県に命じて編纂した『日本教育史資料一』で紹介されており、それを基にして、

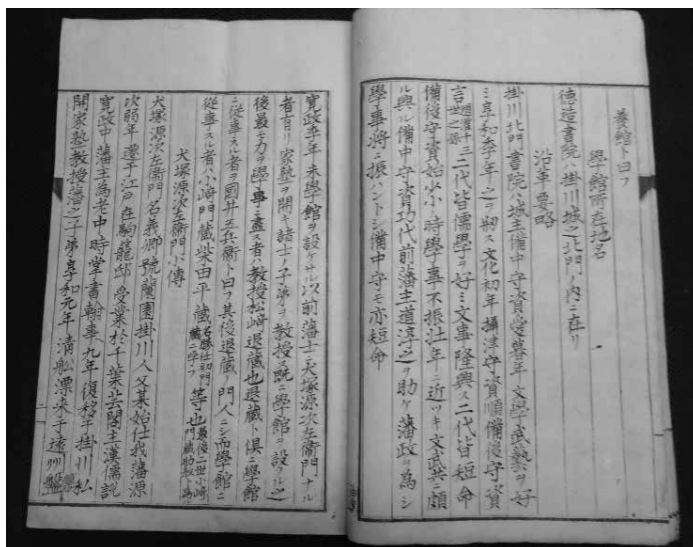
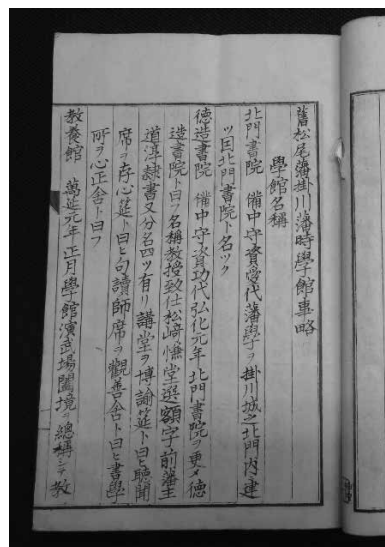
『掛川市史 中巻』『静岡県史 通史編 4 近世二』などに概要が紹介されている。本書は、そのもととなる資料と考えられ、明治初年に舊松尾藩によって編集されたものである。

本文は儒者・河野春寮などの前書きの後、「享和二年 太田資愛 教訓書」「享和二年 太田資順 白鹿洞揭示を自ら写し、版刻して藩土に配布」「文化二年 資順 松崎慊堂の講義を聞くように指示」などの記事があるように掛川藩校に関する記述が大半で、それを受けて松尾藩の学制について述べている。

掛川藩校の名称については下図（學館名称）にある通り第二代藩主太田資愛は「北門書院は・・享和季年・・これを創す（はじめる）」とあり、享和季年（享和四年、一八〇四）当初は北門書院と称していた。次いで、弘化元年（一八四四）第六代藩主・資功が徳造書院と名称を改め、さらに万延元年（一八六〇）正月、教養館と名づけるに至った。「學館演武場園境を総称して教養館という」とある。つまり文武両道全

体を教養と考えるに至ったのである。

（第二部冒頭）



ここでは以下、凡例に従って全文を翻刻する。

凡例

- 一、本書は掛川市二の丸美術館所蔵『舊松尾藩學制沿革概略』（太田松子氏寄贈）全文を翻刻したものである。
- 二、本文の翻刻は次の方針に従った。
 - 1 適宜改行した。
 - 2 割注の部分は小活字を用いて二行に組んだ。
 - 3 底本には句読点が施されていないので、通行の句読点「。」、「」、区切れを示した。
 - 4 漢字は原則として原文の字体を使用した。
 - 5 合字は通行の字体にあらためた。
 - 6 送り仮名は原文ではカタカナであるが平仮名に統一した。
 - 7 本書は4部から構成されている。
 - 【第1部】 舊松尾藩學制沿革概略、
 - 【第2部】 舊松尾藩掛川藩時學館事略、
 - 【第3部】 舊松尾藩掛川藩時江戸諸邸學館事略、
 - 【第4部】 舊松尾藩學館事略である。各々明記した。

【第1部】

舊松尾藩學制沿革概略

藩内學事制度概略

百五拾石 儒者 河野春寮

右春寮、寛永末年、備中守資宗太田道灌六世之孫三州西尾城主の時の仕籍及正保初年、遠州濱松城主の時の仕籍に見ゆ。然れども學館を設け、藩内子弟を教授せむる等の事伝わらず。

駿州田中城主攝津守資直道灌八世之孫代の古

記老臣筆記元禄九年丙子九月十日ノ條に曰く。今日書院舊史臣按ニ書院ニ而學館ニ非サル也に於て谷ト仙に命じ、大学を講

ぜしめ、藩中書状役舊史臣按ニ書状ニ而學館ニ非サル也以上後ニ書状ノ文談也の者聴聞す。以後、毎月朔日、十五日藩中の者、ト仙の講義を聴聞す可しと命ず。亦学館教授等の事、伝わらずト仙姓名資直代ノ仕籍ニ不見

遠州掛川城主備中守資愛道灌十一世之孫代、享

和二年教訓書を藩中に示す。左の如し
書中公様御等ノ文字。有レトモ舊ニ仍リ不刪

學問は、物事の道理を弁へ、君臣父子夫婦長幼朋友之間に行い、身を修め、家国を治むる事を習う事にて、上下日用之急務也。武芸は平日、修鍊し置き、万一の時、君父の要害と為り、家国の騒乱を鎮め、學問の訓にて、不行き届きを助る事を習う事にて、此れ亦武士たる者、第一に心得有る可き所也。就中、學問は、上下に拘らず、誰も心得ざれば、叶わざる事にて、學問を心得たる上、武芸修鍊の者を、実の武士と申すべし。然る故に、武備を以て天下之乱を鎮めたまいし、東照宮様も文を右にし、武を左にすと、御遺訓有らせられし事、人の明かに知る所也。譬へ言に右の手無くして左の手のみにて用事足る可き乎。左の手無くして、右の手動き自由なる可き乎。故に、學問有る上、武芸修鍊の者を、實の武士と申也。我家遠祖道灌公、文武兼備の將

たる事、当世は、申に及ばず今の世の女童に至る迄、誰知らざる者無き程なる故に、其時は文武兼備の家臣も亦多かりぬ。其の後、家の盛衰、時替り近代打続き、御役仰せ蒙せられ、公用に暇有らせられざる故、何時しか、御教訓も弛みたれば、家中の者共、次第に心掛け宜しかざる様に成行き、学問は、書物読師のする事也。太平の世なれば、武芸も然る迄、入らざる事也。唯形のみ覺得れば、宜き等言う輩も有り、学問、武芸共合せて、入らざる事と言う輩も有る様に、略聞き及びぬ如何の事に候乎。御先代より、其方共に、相応の扶持、地行を与え置かれしは、何の為めなる。一つには、人々の先祖の忠勤に報い、一つには、平常、学問武芸共出精致し、無事の世には、父子の間を親しくし兄弟の恩義を尽くし、夫婦正しく狎ししき事無く、朋友に信を失わず、出ては、君上への奉公に道理に違ふ事の無き様にし、事有る時は身命を擲ち、忠孝を励めとの事に非ず乎。

物書算用等、發明に致し、唯目前の事のみ勤むるは商人の利口なる者か、其方共よりは却て好からん取次使者立廻りの奉公は、人品弁舌世上鍊磨せる者を選びて抱えへ用いければ、其方共よりは、却て勝る可し。但し、我が御先代其方共、先祖と共に、苦勞せられて立行きたる我家なれば、君臣一体の義、其方共を見捨様無し。然りと言えばとて、其方共先祖の忠勤を頼み、唯目前の勤のみにて、文武共に打忘れ、無事の世には、五倫之道に背き事有る時は、鄙怯の振舞を為さば、我家より其方共を見捨るに非ず、其方共より我家を見捨る也。斯様の振舞を為す時は、唯我家に背くのみならず、先祖の忠勤を水の泡と成し果さん。返す返すも歎き憂う可き事に非ず乎。斯様に平日憂い煩うを何も知らざる者、聞きなは入らざる案思事とも嘲り笑う可し。然れども、古代よりの書物を能く見ぬれば、平日に文武不心得る國は、是非右様に成行く事、版木にて印せる字の如く一つと

して相違せる無し。此心を以て、其方共の所作を見れば、薄き氷を履み、深き淵に臨む様に危く思はる。故に無て斯様に申聞ける也。因て、追々、學問所も相應に造營し、其方共の器量を養育す可し。今、先づ假に稽古所を申付候間、廿歳已下の者は、稽古日に残らず罷り出で、廿歳已上の者も主用の隙には、急度、罷り出で随分學業出精緻し、末々用立候様、器量相磨き遠祖の御家風を墜さざる様に心掛く可し。吾等存寄これあり以来は、學問武藝等逐一吟味を遂げ候間、此旨油断無き様心得べき者也。

備中守資愛嫡子攝津守資順（暲十一世之孫）享和二年、親ら朱氏の白鹿洞揭示を寫し、一士に命し、之を刻ましめ藩の諸士に頒つ。其跋文に曰く右先正朱文公白鹿洞書院に掲げる者、聖賢為學之要、淺深終始簡括莫遺謹寫一通、上木搨完各諸臣に班す。資順不肖と雖も不足以企於聖賢而景慕之深不能自己則自今以往與諸臣從事ノ者願取法於此享和壬戌秋

八月、源朝臣資順靜勝軒に於いて謹書

す。攝津守資順代文化二年乙丑八月

十三日藩中に令す。松崎退蔵教授毎月七

之日、國井五兵衛毎月二之日講釋す、

下士以上聴聞べき、卒者は蔭にて聴聞

すべしと舊史臣按三五兵衛後名ヲ讓ト更ム蓋助教ニ而大塚源次左。舊史臣按三五兵衛後名ヲ讓ト更ム蓋助教ニ而大塚源次左。舊史臣按三五兵衛後名ヲ讓ト更ム蓋助教ニ而大塚源次左。舊史臣按三五兵衛後名ヲ讓ト更ム蓋助教ニ而大塚源次左。

文化三年丙寅六月十六日松崎退蔵に

命す。學問上之事は學問所に於いて直

に年寄老臣共ニに申達すべきと未だ禄税

料を免除し階禄を昇進する如き奨勵法

を立てず、但し平生能勤る者には賞品

を與へ或いは稀に例より夙く擧て仕へ

使むる有る耳。

備中守資功道灌十五世之孫代、天保十二年辛丑

十二月廿三日小崎門蔵教授に告く明春學

館初會より聖像銅像を安置すと舊史臣曰是年備中守ヲ助ケ藩政ヲ聽ク天保十二年壬寅正月廿六日諸師

範に命す。今度、諸藝演場學館の後に

建つ。明日よりここにおいて演武す可

しと、但し軍學と拳法兩流とは舊場に

仍る。射三流は新築未だ成らず。

弘化元年申辰七月廿五日算學師範に

命す。學館牆内に算學所成る。今より

ここにおいて學ぶ可しと。

士卒子弟教育方法概略

備中守資愛代、寛政末年、掛川に於

いて未だ學館を設けざる以前、藩士犬

塚源次左衛門なる者、家塾を開き藩士

の子弟に教授す等不傳享和末年、既に

學館を設くる以後、藩の士卒に生徒と

同く講義を聴聞せ使む。攝津守資順代、

文化三年丙寅六月學館規則を定る左の

如し。

定

一 素讀 奇日 辰刻より午刻に至る

前凡そ二時、藩中八歳以上廿歳迄

一統罷り出でるべき候。廿歳以上

三十歳迄、素讀未だ済まざる者、

主用の隙に罷り出で候、三十歳以

上の者たりと雖も素讀仕りたき者

は心掛け次第罷り出で候事、苦し

からざる候事。

但し出席人名各帳簿に記し、月

終わりに教授より總司に差し出し候事。

一 講釋 偶日 辰刻一時

藩中の者は勿論、町在の者迄、有志の輩は罷り出で候事。

但し四十歳以上の者又は四十歳

以下にても主用繁多の者、家事繁

多の輩乍ら存に任せず、本意事も

これあるべき。右様の輩は心持次

第となすべし候事。

當日諸支配頭大目付一人宛出席致

し支配下出精、不出精等心付け申

しべし候事。

但し當日座席之儀役人一席藩中

一席町在一席之事。

出席人名は藩中一冊町在一冊

各相記し月終わりに教授より總司に

差出べき候事。

一 會讀 四九之日 自午刻至申刻

前、凡二時藩中町在共一と通り素

讀相濟み候者、罷り出ずべき候事。

藩中の者、素讀未だ相濟み候とも
出席致したき輩は存じ寄り次第、
罷り出で候事。但し著席素讀之次
第に同じ。

諸支配頭出席講釋の節に同じ人名
帳簿前の如し。

一 仕付方^{禮習}二七之日 自午刻至申刻
前、凡二時廿歳以下素讀人罷り出
ずべき。三十歳以下素讀人も心掛
次第罷り出ずべき候事。

但し大目付一人折節出席出精不
出精心付可申候事。

一 休日 一六

當日學問所中諸稽古一切相休候
事。

素讀書物

小學 四書 近思錄 易詩 書

禮記春秋^{左氏傳} 舊史臣按二書目蓋生徒ニ口
授スル次第ヲ以テ記スル也

講釋書物

小學 近思錄 四書

會讀書物

五經 十八史略 歴史綱鑑

獨看書物

歴史諸子等追々出精次第獨閱可致
候事。

學問所出役人

總司 年寄月番 一人

分司 諸支配頭當番 各一人

監察 <sup>大目付吟味
奉行之内</sup> 一人

教授 講釋會読 一人

助教 <sup>素讀 教授故障之
節代講可相勤候事</sup> 二人

仕付方^{習禮} 一人

文化三年丙寅六月

講釋之式

一 講釋之節作法能列座致し聴聞仕る
べし。扇子遣い其外失禮之儀、こ
れ有るべからざる候事。

一 藩主出入之節、通路明け謹みて平
伏罷り在るべき候事。

一 教授出席之節も通路明け謹み罷り
在るべき候事。

一 教授著座退座之節并に講釋之終始
謹みて一禮之れあるべき候事。

一 講釋相濟退座之節容儀正しく末座

より兩三人つつ次第を乱さず退座
之あるべき候事。

一 摠而學問所は禮儀出候根本に候え

ば出席之面々拘わらず、素讀講釋
一統禮儀相嗜み候者勿論之事。

文化三年丙寅六月

文化三年九月十八日學問所會讀國語
四十九日に更む<sup>初國語無シ。
四九之日</sup>。

備後守資始<sup>道灌十四
世之孫代</sup>、文化九年壬申三

月八日下士以上子弟之講義有司試之翌

九日素讀試之<sup>右實館ニ
於テ試ム</sup>十日卒子弟之素讀試

之<sup>右學問所ニ於テ試ム、舊史臣曰備後守ト稱スルハ遺書也此時多門ト稱ス
藩主不在ナレハ老臣代テ文武諸藝ヲ試ム此毎年ノ事書スルハ備後守代
ナレハ也</sup>。

備中守資功代、弘化元年申辰四月の

規則左の如し。^{節録}

一 讀書之志有之候ても役用繁多又は

武術稽古之次第に依り、朝より晝
迄之内、學問所へ出で難き面々は

晝後にも夜にても苦しからず候

間、其の趣き學問所へ對談之上讀

書すべき事。

一 會讀、講義是亦學問所へ對談之上晝夜都合次第參るべし。會事但し 聽聞のみに致し出席候も苦しからず候事。

一 句讀師一人つつ學問所に晝夜罷在り候事。

一 學問所定め書きに藩中八歳以上素讀致すべき旨これ有り候處、當時は八歳に相成り候ても入學為し致さざる者もこれ有り乎に候。以来は八歳に相成り抛故障等無きこれ有り入學致しがたき事これ有り候はば其の旨手寄支配・相断わり申すべき事。

一 右同書齋に四十歳以上の者又は四十歳以下にても主用繁多の者、家事繁多の輩は心持次第となす候とこれ有り候に依り自然に自己の勝手に拘り出席遠に相成り候事もこれ有るべき以来は四十歳以上并に役用繁多の者は格別其外故障これ有り、面々は其次第支配頭へ相

断わり可く申す事舊史臣曰此四十以下ノ者ニ講釋日ニ必ス來リ聽聞セ使ムル也

辰四月

弘化元年五月の規則左の如し亦節錄

一 十二歳以下に而小學四書素讀相濟

候者

一 十五歳以下に而素讀之業相濟候

者

右之者有之教授より選舉候はば年に一度、學門所に於いて自試藩主自試これ有り其の席上において四書五經之内一二章抜いて讀み致させ何れの章にても音訓を誤まらず便々と讀み候者を第一とし其の内、偶またま一二字を遺忘したるを第二とし又三四五字迄を第三と定む。右三等之差に依りて賞品これ有るべき事。

一 經史之内一部の書に通達致し候者右之者之れあり教授より選舉候はば年に一度學問所において自試これ有り其の席上において經史之内通達致し候、書中一二章拔出し講義致させ、義理詳明に解し得たり候者を第一と

し其内義理明細ニに解しえざると雖も其章之大意相分り候者を第二とし

一二事の解し誤りこれ有候者を第三と定む。右三等之差に依りて賞品これ有るべき事。

惣じて學問者修身之本に候えば其身の行正からざれば叶わざる事に候。平常其身之行状宜しく且つ自試の席上に於いて經史共詳明に解し得候輩に於ては格別之賞品これ有るべき事。

朝夕經史を誦讀し其義理を解し得候と雖も今日實行これなければ學問之趣意を失い候間、自試三等之科に當り候と雖も其身之行状宜しからざる輩に於ては賞品これなき事。

天保十五年申辰五月

備後守資始代、天保以来文學武藝修業の者有之掛川より江戸に来る者或は江戸藩邸に在る者其藩命を受けて學ぶ者には其家祿の外に學費を給す。其れ自ら乞い學ぶ者には其家祿の外學費を

給せず文化文政中事未詳

平民子弟教育方法概略

攝津守資順代、文化三年の學館規則に町在の者迄、有志の者をば講義を聴聞するを許す文有り備中守資功代、弘化元年暫町在の者の聴聞を止む其の後、復舊の如く篤志の者の聴聞を許す。

文化中攝津守資順備後守資言道灌十三末だ孰れの代を詳かにせず。慶安公移と六諭衍義諺解とを版に刻み封内に頒布し先ず民を富して後之を教えんと欲す。文化末年備後守資始代備後守八重書也此前の教授松崎慊堂に命じ五倫口解を撰べしめ之を刻み、亦封内に頒布す。此れ皆唯だ民之父兄を教ゆるのみに非ず。亦其子弟を教ゆる所以也。

掛川城下及諸村中に藩立の校はこれ無く、家塾を開き書を童に二教ゆる者は往々にこれ有り。然れども皆生徒少し。

家塾設置制度

家塾ヲ開ク者之を有司に請わず、亦

有司之を禁じず自由に開設するを得せしむ。

右掛川藩學に係る

【第2部】

舊松尾藩掛川藩時學館事略

學館名稱

北門書院 備中守資愛代、藩學を掛川城之北門内に建つ因りて北門書院と名づく。

徳造書院 備中守資功代、弘化元年

北門書院を更め徳造書院と曰う。

名稱教授致仕松崎慊堂額字を選び

前藩主道淳隸書。又分名四つ有り

講堂を博論筵と曰い聴聞席を存心

筵と曰い句讀師席を觀善舎と曰い

書學所を心正舎と曰う。

教養館 萬延元年正月學館演武場闔

境を總稱して教養館と曰う。

學館所在地名

徳造書院は掛川城之北門の内に在り。

沿革要略

掛川北門書院は城主備中守資愛暮年文學武藝を好み享和季年之を躬す、文化初年攝津守資順備後守資言道灌十三世之孫二代皆儒學を好み文事隆興す二代皆短命備後守資始少小の時、學事振るわず、壮年に近づき文武共に頗る興る。備中守資功代前藩主道淳之を助け藩政を為し學事將に振わんとし備中守も亦短命。

寛政季年永學館を設けざる以前藩士に犬塚源次左衛門なる者有り家塾を開き諸士の子弟を教授す既に學館を設くるの後、最も力を學事に盡す者は教授松崎退藏也。退藏と俱に學館に従事する者を國井五兵衛と曰う。其の後、退藏の門人にして學館に従事する者は小崎門藏、柴田平藏名勝初門等也最後二世小崎門藏助教ト為ル

犬塚源次左衛門小傳

犬塚源次左衛門、名は義郷、號は蘭園。掛川の人。父は某、始め我が藩に仕え、源次弱年江戸に遷る。駒籠邸に

在り、受業於千葉芸閣主漢儒説、寛政中、藩主老中となりし時、掌書翰事九年復移于掛川、私に家塾を開き藩之子弟を教授す。享和元年清舩漂来于遠州盤田郡大嶋海我が封内也。源次藩命を奉り舩主劉昭字然應按する事畢、藩主より銀賞を賜わり勞る。文化三年某月某日歿仕至階文談職馬廻俸二十人口、松崎退藏祭犬冢亡友文曰。

文化四年秋九月庚子朔越十三日壬子友人松崎明復門生を使わして種謹致祭亡友犬冢蘭園之靈、嗚呼、義郷世固有望衡對宇而終身翫然者又有聞名。而心孚目擊而道存者盖磁鍼雖異處而相求冰炭雖同器而必判子之。在世五十餘年、云人莫余知及余知子中間一年其間亦不能屢相見而何其情真而言殷也。世皆謂子怯子果怯耶皆謂子戾子果戾邪吾唯睹子之胸羅今古目空一世慷慨感激不知。

其の身在賤而遺夫權與勢耳。嗟子之壯也。余不及見余見子則老以病矣。又余之賤而不能推而上之幸尚未死行且謀之曾不須臾而子之事遂以竟嗚呼哀哉。

老子不云乎世不吾知則我貴舊史臣按老子作知我者希則我者貴矣彼遂臭而就腐醢中之雞爭處而聚令其知子子亦恥吾之知子子之貴亦少貶而子之所存固不以閱子其有知耶。不知邪平生之言唯余有託豈云必能翼不負諾嗚呼哀哉。

小崎門藏小傳

小崎門藏、名は展、字は大成、號は疏齋。掛川の人。本小栗氏、世に仕え尾張父名行忠有故辭仕乃變氏曰小崎来仕我藩為賤吏前配某氏生二子歿再娶鈴木氏生門藏其異母兄皆歿乃嗣家始為筆吏受業於松崎退藏主宋儒説退藏初釋經用新法晚年為復古學竟為教授及老能勤至階馬廻俸如干。安政四年十月十八日歿す年七十九、子怡成嗣後亦稱門藏為助教。

教則

幕府學館専ら宋儒の説を用う。故に藩學も亦不然るを得ず。後には必ず然らず。授業之用書順序等は前の士卒子弟教育方法條中に在り。

學科學規試驗法

備中守資愛代、享和季年學館を創し教授を置き子弟を教える。唯だ漢學有りて習禮カレこれに附屬する耳。學規は宋の朱氏白鹿洞揭示を以て大規則と爲す。毎年正月開學の日、教授これを講ず例也江戶文政七年八月藩主資始自ら其祖考親を寫す所の白鹿洞揭示に跋文を加へ之を學館に掲ぐ其數文此佗小規則試驗法等は前の子弟教育方法條中及び後の興邸學議條中に在り、夫の書數射御兵學槍劔砲術拔刀拳法游泳等の若きは皆昔より各其師有りて學習者其師家其演場に就て之を學ぶ文學と相關わらず然れども生徒に皆文武兩術を修め使む。但し生徒之賤者は馬槍兵學を學ぶを得ず。賤者にして馬術を學ぶ者調馬師の子にして又必ず兩道の比例を不立。生徒入門の日必ず禮服し師家に到る。試の日も亦禮服し有司師家に到り恩を謝す。賞を賜わる日も亦同じ。

職名及俸祿

職名は前の子弟教育方法條中に在り。俸祿は家祿の外、職銀無し。但し賞銀を與ふる耳。

職員概數

職員も亦前の子弟教育方法條中に在り。

生徒概數

平生生徒凡そ二百人。寄宿生無之夜學酉刻より亥刻前に至る凡そ二時。

束脩謝儀有無

束脩は入門之日扇箱を以て師弟相見之禮と爲し謝儀の有無生徒之意に隨す。

學館經費

經費不詳、決して學費を藩士に賦課する等之苛政無し。

藩主臨學

藩主在城之日は必ず時々講義會讀を

聽聞す。藩主自ら生徒之業を試む。天保以前は賓館に於てす。弘化以後或は學館に於てす有司卒之子弟ヲ試ムルハ昔ヨリ賓館ニ於テス。

祭儀

天保十三年正月始て孔聖の銅像を學館に安置す。弘化三年二月始て釋菜す。藩主有司藩士皆禮服し聖像を拜す。教授生徒も亦然り。生徒に果子を與う。毎年春秋之を行。本より祭器不備なれば供物も亦具わらず。但し酒饌を供うる耳。

學館構造并圖（参考圖1 掛川學館圖）

徳造書院在中央西面茅屋院中二分上博論筵下曰存心筵并百五十三坪 觀善舍生徒師舍在書院西北隅三十二坪

心正舍書学所在書院西南六十五坪 門四坪五分 門兵所在門北三坪七合餘 數學所在門兵所北十二坪五合 小底舍在門南七坪五合 文庫離在書院東北十二坪 演武別紙圖面有り

場槍術離在書院東百二十六坪 砲術演

場二所並非統皆離在書院北東場二十六坪

七合 西場十九坪二合餘 建屋總計

四百五十八坪七合餘 園境一千五百九

坪七合餘。

封内家塾

城下及び諸村中家塾を開き書童を

教ゆる者往往有之と雖も塾小さく童

少く其地名其人等按ふ不可。

右亦掛川藩學に係る。

【第3部】

舊松尾藩掛川藩時江戸諸邸學館事略

學館名稱

拭目館 備中守資愛代學館を江戸西窪

江戸邸に設け、但し稽古所と稱す。爾

後諸邸の學館並に名稱無し。備中守

資功代、常盤橋邸に學館を為り、始

て拭目館と名つく。館名教授海野豫

介選額字前藩主道淳即備後守隸書。

學館沿革事略

備中守資宗寛永中諸家系代より攝津守資俊

道灌十世之孫代に迄るまで學館の事不傳備中守

資愛暮年儒者松崎退藏砲師東志津摩名常良

を辟す。演武場は素諸邸に在り射御劍

砲拔刀拳法の教師有り素武衛流ノ砲師有り亦川嶋小傳次ナル者有リ流派ヲ不詳志津摩

ハ狹野流也。學館は享和季年开始て之を西窪江

戸見阪邸に設け、教授松崎退藏句讀師數人を

置き藩士の少壮及び子弟を教育す藩主ノ教訓書有リ

載テ前ノ藩内學事。制度概略中ニ在リ文化初年攝津守資順備後守

孔聖銅像高凡一尺八寸一體後移して學館に置く。

學館藏物

藏版無之縮刻石經三禮儀禮周禮禮記ノ版者松崎

慊堂三禮其它三書を幕府に獻する時

皆藏版と稱すと雖も實に我家之藏版

也。夫影宗本爾雅陶淵明集三謝詩の

若きは慊堂藏版にして後に我家に納

る者也。此佗猶一二版有り皆家藏に

し而學館の藏版に非ざる也。或は藏

版本に掛川徳造書院藏梓の印を印す

る者有るは猶江戸邸の藏書に掛川文

庫の印を印することとき也。

藏書頗る富む後に之を上總に移し松

尾學館に置く。其佗猶多し今目錄不

在れば種類不詳。

資言二代儒學を好み、退蔵亦大いに力を盡す。又市河小左衛門文化以前より久しく我邸に來り書を講ず舊史臣按ニ蓋藩主ノ堂ニ講シ而字館ニ講スルニ非也。後、退蔵掛川に移る。然雖ども

毎に藩主に從い江戸邸に來り教授し二代之間文學尤盛。備後守資始代文化九年復退蔵を以て江戸邸の教授と為す文化初年

弱の時退蔵既に致仕し、松崎彌六議藏を以て教授と為す。文學稍衰え文政初年

備後守櫻田邸に移り、其壯に近づくに及び文武漸く興る。天保五年龍口邸老邸

に移り、海野豫介を以て教授と為す。後に又砲師東志津摩に命じ巨砲を鑄さしむ志津摩官ノ命ヲ奉ケ大砲ヲ造ル是ニ於テ再ヒ造ル。備後守老備中守資

功常盤橋邸に移り、學館を設け豫介頗る力を教授に竭す。文久二年備中守資美道道羅十六世之孫櫻田邸に移り、史臣矢部温之助

を襲用し、更に松山直弼なる者を辟し教授と為す。駒籠千駄木別邸下邸稱スト者、備中守資宗代

寛永中の賜邸也。

其學館何れの代に創するを不詳。備後守資始代文政初年より天保季年に迄り篠田三平名孝肅退蔵ノ門人昔テ佐藏ノ門人高木七郎兵衛退蔵ノ門人昔テ佐藏ノ門人等相續き教師と為る。前

藩主道淳既に老し本邸に在り弘化二年新に學館を營し矢部温之助を以て教師と為し館の南房を其宅と為す。館の北

を劍術演場と為し鈴木藏六名正常沼田藩士長沼正兵衛門文政中劍術奉

前藩主の位と為し、以て南面し而文士之経を講ずるを聴き亦北面し而武人之劍を學ぶを覽るに便す。

享和二年教授松崎退蔵の興邸中學館議有り、尤も學政に關係するを以て左に録す。

興邸中學館議

夫學校者風教之所出政化之所。本是自古昔盛時王宮國都皆有學焉。至鄉黨閭巷之微亦莫不皆有校庠序塾焉。今五萬石之地比彼齋魯則信小較之邾莒滕薛則信大莫不及也。而無一校一序之設雖

我候。自安無及愧彼鄉黨閭巷乎。且人材之不髦風俗之不淳顧其失坐此耳雖然世方以優游苟偷為高以曲謹小廡為道而以瑣碎刻薄為居官御下之定矩當是時欲遽行古制不惟人情不欲抑亦事勢之不可行者也。然而事之積小而大自微而著可以漸磨而致者又在上者所宜究心也。今愚臣所請就霸府上邸用數架間屋略設教官有司如左所條以試其制可果行與否則異日校庠之設輪奐於城下者不難致焉嗚呼之化滿於封疆而四方取則者自此以始五萬石之士夫五萬石之生靈幸莫甚焉。謹錄其姑可行于。今日者如左閣下其留意焉。

官員并職任

教官一員 奇日平明盡卯下刻講義午上刻盡未下刻會讀

句讀師二員 每日辰上刻盡已下刻句讀

監察一員不用馬廻以上老不職事務者奇日平明盡未下刻籍記肄業者姓名及勤

惰敬慢月終則納之大目付大目付上之

公所讀日記用三冊子一記句一記議義一記會讀以供試日勸懲

小監察一員用馬禮以下老不堪事務者偶日辰上刻盡已下刻

籍記肄業者姓名

勤惰敬慢用監察日記一從監察例監察有故則

攝之

仕役一員用足輕實實口實者為之奇日平明至未下刻。偶

日辰上刻至已下刻。供茶烟及教官句

讀師監察之使命。

肄業書籍

四書 小學 五經春秋用左氏傳 以上句讀四書通者聽講五經通者參

會舊史臣按通者蓋謂通句讀也非通義理也

四書 小學皆用正文 以上講義

四書 小學 五經集注春秋用左氏傳 歷史綱鑒

以上會讀經盡年史盡年

士大夫立志講學內則修身齊家外則治

國安天下之事莫一不在吾分內則天下

之書莫一不可讀者但為初學立法不得

不如是爾且經義之業實學問之終始捨

經論學猶不種而耘也雖勤何為若夫餘

力所至博涉廣獵極天地秘藏亦在其人

困勉耳在在上者鼓舞耳。

考試并賞格

試日序席初間尚齒考訖尚賢

句讀試 月一次 誦讀二百字或用帖經看讀

四百字三試一時凡三月皆中其科最賞書一部

小學次易詩次書次禮記次春秋皆用正文用字盡精良本

卷尾親筆書花押賞姓某某月日數字以

助激勸 誦讀差誤看讀六百字三試同上

皆中其科平賞紙筆若干二件皆極精良十二試四時凡十二月上

皆中賞視最科 看讀六百字三試失一

字其科殿不賞不罰。失二字以上其罰

肄業日辰至已行茶烟不齒至次試日

講義試 三月一次國字演義不用試字義四事

皆中其科最賞視句讀最科唯用四書集

注用字盡精良本下做此卷尾親題亦同其四試皆中歲

終有賞在侯親裁 得三失一其科平賞

視句讀平科俱倍其數四試得三失一歲終賞書

視上平科用集注本同上得失相半其科殿格視句

讀 得一失三講席不齒至試日

會讀試 三月一次與講義試五月其月四書五經經義

二章綱鑒典故二道經史皆中其科最賞

書一部用五經集注本其序視句讀講義實或子史一部

四試皆中賞在侯親裁 得經失史其科

平格視講義平科同餘得史失經其科殿格

視講義殿科或得一義或得

一典及經史俱失其罰視講義罰

右錄其宜於今日者如上至若夫濟二

多士育於侯國則經義治事史學文章各

因其質而篤而後校庠規模彬彬可觀焉

程子曰一命以上凡專志一藝雖其成有

小大於世必有濟焉今五萬石之地上自

從政大夫以下至百執事一命以上凡幾

百員矣使其皆志其遠者大者則其於濟

世豈特如程子所言而已哉然其所以至

此者蓋亦在我侯修德進學與其鼓舞作

興如何耳。愚臣又嘗觀世幼孫者導之

以順善則順善若乃肆然放之莫為之教

則敖慢邪僻何所底止迨其如是雖以父

兄之親愛無間而且不能望其孝悌于子

弟也。然況君之於臣分義遼隔恩意難

洽誨之諄諄不惰猶恐背我又況縱之不

導而聽其所好則黠者欲詐妄者欲誕強

之陵弱讒之克良庸者苟食弱者苟從國

治君明如無大弊一旦緩急紛然鳥散不

可收拾此其害之所必至其誰保不然哉
是臣區私情所以不可得而默止也。
固謹條學館事宜請封植風俗政化之本
者如此閣下幸加察焉

享和壬戌夏六月十九日臣松崎明復

再拜頓首錄上舊史臣曰嘗聞凡退藏所
議時藩主大概從之

又嘗て力を掛川城江戸邸各地の學事
に盡せし松崎慊堂退藏致仕シ
慊堂ト稱スの傳及び力を
江戸邸の教授に竭せん海野豫介小傳有
り、並に舊史臣の私に記せし艸稟と雖
も亦左に存録す奏舊史臣ノ私記ナレハ大君公侯先
生居等ノ稱有リト雖モ今之ヲ不改

掛川藩江戸邸前教授松崎慊堂傳

潤謹參觀慊堂先生墓誌墓表行述誌者
大簡不足以見其德業亦表之文則雖美其
事則多略焉惟行述之辭雖雁行表之文其
事則甚詳矣此愛舉鹽谷君以先生歿之年
十二月所述也我海野先師之撰墓表用行
述之辭為多今潤取行述全文其所未詳者
以誌表之語及潤所見聞者補之以為先生
傳駒籠矢部潤

先生松崎氏諱復字明復初諱密字退藏

行述 潤嘗聞先生
弱年稱譽六後實退藏壯年名明復字希孫號慊堂潤號臺
山隱筆

又號本倉當歸山人老號鞠仙羽澤釣

者並謙潤所見先
生自書及印文補肥後國益城郡木倉村人父曰

惠法母米光氏世業農或曰其先豐後人仕

大友氏後遷本州行述潤按米光
墓誌作未滿明和八年辛卯九

月廿七日生墓誌先生幼聰穎數歲能讀四子

五經十歲以父意薙髮為僧年十五乃欲歸

乎儒出奔江戸訪其親族不能獲還至武相

界遇盜盡喪橐錄彷徨至豆之三島款寺門

投宿主僧叩其志而閔之以書致之江戸稱

念寺寺主玄門愛其敏慧勸住持屬院先生

不肯曰若欲為僧吾鄉之寺乃鉅於此唯其

不欲是以奔己玄門知弗可奪厚助游資升

諸簡順林君門人昌平學先生氣力無人治

經為文詩沈摯精緻嶄然駕等輩居數年快

烈君自岩村入繼林氏聞其才名延致家塾

適一齊佐藤君亦在焉相與磨礪切劘學業

益進享和二年掛川城主大隆公辟為藩教

授食俸廿人口無幾隆公卒潤謹按隆公諱賢愛號梅遊稱
備中守寬 政時老中文化

多與之訪先生悉力匡翼所言莫不行列國

法士大夫死無嗣者許暴納異族為後謂之

急養子而祿爵遽降先生建白凡如是者宜

博搜精遴以期於得哭不應期限忽遽致謬

取匪材其未得之賜祿如故則餽粟之費小

而得人之益大從之至今國人仰公之風曰

某法悟公之所建也某令悟公之所定也口

其仁明者不一而足蓋出於先生冥贊之力

者居多先生處事公亮不邀名不誇功務歸

美於君而已居其勞公倚之如左右手述行文

化五年悟公卒潤謹按悟公諱賢順字士健一子士敏敦有靜勝葛原諸
號稱攝津守道二公之子文化五年戊辰卒諱大悟

院道見了公立亦識先生愛敬之臨文事字而

不名七年了公亦早世潤謹按了公諱賢字信岳稱備後守道
號見了院道圓公於是先生三喪所天此所以其早

乞骸骨也道淳公自宮川入嗣文化至此五十七字潤謹
補道淳公諱賢始字善繼

不傳潤嘗發問了公就部以淳公為假嗣了公病水戸公欲以了公之子為嗣我諸大
夫辭之先生言事蓋此事也此文化七年事也而行述書十八年朝鮮求聘後

八年朝鮮來聘津島潤按州名紀原對
今正 津島馬備事記作津島林氏例當

接伴快烈君乃請先生以往從前接鮮之儀

弁陋失體者至是悉革焉若林君私見用便

服燕語具書記投贈從彼而我乃和答皆快

烈君與先生謀定之加以先生學殖之淹博

文辭之賦敏鮮客敬服不敢違述行九年加俸

五口誌舉時肥後侯以先生其國民也將請諸

掛川候復之潤按肥後侯蓋細川公齊榭也先生謂出女可以嫁而

嫠婦不可再醮君臣夫婦其義一矣吾歸于

此十年所天三喪不可以移遂與書其鄉人

曰越之鳥飛集於燕為主人所羅受其美餌

南望之情雖切柰主人之恩何往復數回辭

旨綦哀肥人乃不敢強焉於是作和陶飲酒

詩二十首以示志行十一年十二月致仕賜

養老俸若干誌舉買山幕西羽澤村刺茅以家

焉所謂石經山房也先生學靡攸不闕最邃

經義實事求是不偏主一家嘗曰經訓坦明

炳如日星箋注榛蕪大道乃荒欲復諸古

惟在知字而諷誦焉耳若望文生意自栩

心得私意日長而經旨益乖欲免班氏所

謂碎義巧說破壞形體終以自蔽者得乎

其大體三年一藝多聞闕疑庶乎用日少

而畜德多三十而五經立者可以幾也若

夫訓詁原諸說文參諸漢注唐疏餘力以

及三史文選如是而材之不成者未之有

也迺把開成石經益以孟子大戴記考訂

以授梓天保十三年三月大朝有召見之

命四月朔初見大君即日藩侯賜爵用人

俸廿人口其後歲時奉朝請

候十萬石以上各刻典籍先生躍然曰是盛

舉也張而大之在吾儕矣因注古典善本僅

存朝當急雖乃者題曰擬刻書目獻諸當路

明年肥後侯亦召見即建言請借足利學所

藏宋槧五經注疏而梓之事始就緒而先生

嬰疾及病尚說修經事媿口占以授徒至瞑

目然後已潤按此肥後侯細川公齊諱前侯之子弘化元年甲辰四月廿

一日易簣於山房之正寢享齡七十有四潤行述

遺言曰勿作碣辭唯題石曰五經先生墓

足矣潤按墓誌曰遺命勿為私諡訃聞太侯惋惜且曰世之銘墓

動輒數百千言雕繪藻飾徒悅生者究亦歸

蝕泐耳慊堂遺言可謂達矣雖然才與學如

慊堂國之所罕出終無其辭亦無以慰其徒

之心矣予命汝豫表其概略窅窅下其亦可

頌也墓表潤謹按太侯即導澤老侯也既終之七日門人商議卜地

於郭西目黒村長泉院以葬焉先生嘗有家

園萬里不歸園且住都城西盡村之句故其

宅兆亦措之鄂之極西遵素志也行述潤按門人之老輩者海野先師安井

諸君也先生為人寬而介其所操執外若可奪

而內實抗讎豫嘗從先生於西海一夜舟中

坐談徹曉先生曰吾自少小至今回想其所

履歷恥且悔者不知幾許然其至自欺欺人

者未曾有之也表舉資性真摯厚於人倫誘掖

後進惟恐不及視人危急投水火以赴救雖

其骨肉至親趨趨不敢為者獨忘身從之孤

兒寒士及貧不能嫁者賴以獲所者不可勝

數其或負恩或有過惡洒然不留於臆若始

不記其事諸故舊死者逢其忌日雖遠必往

掃墓不以風雨寒暑少懈先侯墳廟在箱嶺

距都三百里屢往而拜之潤謹按先侯大隆大隆見了三公也其墳廟在伊豆國田方郡玉澤蓋以相連誤為箱嶺也玄門歿視其子如視玄門前後交

游甚廣最與狩谷掖齋相推重自言吾志於

復古得之掖齋為多潤嘗聞市野口庵翁先生師友也翁名光彦晚年聞望

益隆閣老參政或至交膝咨諏然幄議邃秘

人莫得而聞之故不能傳也孺人關口氏江

戶處士專藏女子明遠嗣家食廿人口俸皆

先歿側室男曰耆甫九歲藩侯以特恩賜俸

三口佐倉候亦致月稟若干潤按明遠稱嗣六者墓表作耆助佐倉稱由公正篤也

孫德明未冠以蔭食俸十五人口孫女二人

接鮮瘡語二卷游豆小誌一卷換骨志喜一

潤曰德明今退藏也孫女長嫁士人某早世次適岡崎藩士木戶某其潤亡妻之弟

接鮮瘡語二卷游豆小誌一卷換骨志喜一

卷游東陬錄二卷日錄廿四卷文詩如千卷所校栞有影宋爾雅陶子集三謝詩其審定十二經文字九經字樣刻已成孟子戴記則未逮成云行述

掛川藩江戸邸教授海野豫介小傳

海野先師名豫字豫介以字為通稱號石窗滋野姓海野氏遠江掛川人系出左京大夫幸義左京之孫三左衛門元幸從左衛門尉戰死於阪城三左之子五郎兵衛元氏幼在伏見長移掛川先師其裔也數歲入某翁門讀書做字戶冢竹窗名泰字春輔城下人後為讀書

中村葛嶺名其數字其益友也文化三年松崎慊堂先生在掛城先師年廿一初見先生聞其緒論心服事之八年慊堂先生徒林祭酒適對馬欲携先師以有老母猶與其母頗賢許之葛嶺亦慊憑焉先師乃同葛嶺及戶冢柳齋名春字春輔竹窗之弟隨先生渡西海竊窺接鮮之儀明年慊堂先生移江戸邸後隱居于城西羽澤先師復來隨時和田水軒名持正字叔候亦在焉共切嗟研究故及老相親先師業成寓江戸見阪教授學子文政十一年道淳侯為

大阪城代慊堂先生以教授致仕從焉居一年代已以先師先師乃游事阪城天保二年淳侯遷京所司代先師從移焉於是得觀

京攝古利藏弄異書讀皇清經解及段阮

諸儒著書業彌廣識彌高嘗謂潤曰此皆我公之賜也五年淳侯拜西城老中先師從歸焉始仕為教授賜階右筆俸十五口家於麴坊為世子師後徙龍口邸教授邸中子弟十一年以教授竭力益俸五口明年從藩侯移常盤橋邸弘化三年以職業不懈賜階馬廻嘉永五年再益俸五口并前俸廿五口安政四年丁巳十一月二日以病歿距生天明五年乙巳十一月朔得年七十三葬于城北日墓青雲寺之山淳侯聞訃愴然語昵臣山角氏曰寡人失無二之老惜乎又曰文化末年我弱冠在掛城始聞豫介壯歲篤志嘉之及在阪城慊堂薦之乃擢諸民間以為教授今幾三十年矣近聞佐倉侯請豫介講於其學館泉侯本多公忠亦招聽其講經則其學殖可知矣然而其誘蒙士諄諄詳語不敢怠倦我尤嘉之潤嘗見其所交簡堂羽倉君雲禎森

君息軒安井君愛皋鹽谷君華山渡邊翁成齋小嶋翁等皆有名士也配木村氏善治家事二女無子養子禮卿字必由嗣

門人駒籠矢部潤臺

教訓

教科用書等は前の學館沿革條中興邸中學館議中に在り但文政以來講義輪講月に六次に不過是賓館の講義も有る故也三灰。又駒籠別邸學館弘化以後孝経ヲ講義輪講の書に加へ八九歳の幼童に三字経孝経等を授け句讀卒業の者と雖も老莊等を讀むを不許

學科學規試驗法

此等は前の士族子弟教育方法條中及興邸中學館議中に在り文政中以來試験の法至て寬且年に一二次因覽と言う而試と不言藩主ノ親覽ヲ俗ニ御覽ト云ヒ大夫庶覽ヲ二覽ト云ヒ以テ別ツ是藩主官途に就き公私多務に因る也乃ち子弟平生の勤惰を視能文學武藝を勤むる者を賞し中士以上の子弟には袴を與へ下士の子

弟には金を與へし事有り又稀に例より
夙く擧げ用ゆる事有り天保季年書籍銀
左傳を與へし事有り弘化以来幼童之學藝
一部を覽能書を読みし者に紙を與へ能劔を
學びし者に竹刀を與へし等の事有り

職名及職員

職名職員も亦興邸中學館議中に在り
駒籠別邸も亦教師一人句讀師數人

生徒概數

西窪櫻田前龍口常盤橋櫻田後皆上邸ト稱ス
ヒ移ル學館生徒築地後土佐候愛宿下小名木川
舊白川別邸皆中邸ト稱スの子弟を併せ凡四十餘
人獨駒籠別邸下稱ス學館生徒凡三十餘人

束脩謝儀

束脩入門之日扇子を用ひ謝儀七月
十二月小魚を用ふ

學館經費

經費按ふ不可

藩主學

始て學館を開く日藩主有司臨み講義
輪講の日時・臨む生徒之業を覽るは賓
館に於てす卒ノ子弟之業ヲ覽ルハ賓館ノ廊ニ於テス駒籠邸學は前藩
主時・臨む藩主も臨みし日有り

祭儀

西窪邸に學館を設けし以来未釋奠を
行はず獨駒籠邸學弘化二年乙巳八月下
丁の日始て之を行ふ本日午後孔聖畫像
を學館中央所謂の壁上に掛け赤飯酒魚棘鱒
果子柿を釋き幣帛を奠祭器不備レ則供物モ亦不具但其儀ヲ行フ耳前
藩主進み香を焼き再拜し神酒を飲み復
再拜し退く用人以下藩士教授以下生徒
皆禮服し再拜す是日教授に酒饌を與へ
生徒に赤飯果子を與ふ後毎年仲春秋
下丁の日釋奠す乙巳之儀の如し但果子春香燈ヲ用ヒ秋柿ヲ用フ魚棘鱒魚無レ則鱒魚ヲ用フ

學館構造概略

西窪邸學は按ふ不可櫻田前龍口二邸
學は隘陋録するに不足常盤橋邸學は東

面樓上南北三丈東西一丈八尺凡十を以
て學館と為し樓下を以て教授の宅と為
し館の北樓上樓下併セテを以て教授の家
塾と為す駒籠邸故學も亦窄陋記すに不
足弘化二年新築學館は瓦屋東面南北二
丈四尺東西二丈七尺凡十八坪並ニ狹小ノ建屋更ニ圓ヲ不作

學館藏物

何れの邸學にも藏版無之常盤橋邸學
藏書小しく富むと雖も目錄不存

右掛川藩江戸邸學に係る。

【第4部】

舊松尾藩學館事略

學館名稱并所在地名

教養館 知事資美新たに藩學を築き舊掛川藩學の總稱を襲用し亦教養館と曰ふ。其所在之地は松尾追手前也。

沿革要略

知事明治二年始て上總に來り暫く武射郡芝山村に在り。假りに柴山藩と稱し假りに學館及び劍術演場を設け教授教師に命じ生徒を教えしむ。三年新たに松尾藩を築き焉に移り復假りに學館を設く。四年新たに學館を營し館中に洋學所書學所有り境内に病院^所數學所學劍場有り。茅屋と雖も規模頗る大いにして輪奐と謂ふ可し。少參事青木仲亮頗る力を學事に盡す。惜乎、儒學教授助教學之を承け員に具ふる耳。亦尋

いて廢藩廢縣遂に木更津縣之有と為る。

教則

昔日掛川藩學に於ては江戸昌平學に倣ひ宋儒の説を用ふ。今日此藩學に於ては兼て漢唐清儒の説を用ふ。偏に一家を不守但經を以て經を解くを要す。又生徒に國書兵書を講讀せ使む時勢に従ふ也。

學科規試驗法

平川一彦^{教授}等艸する略則左の如し

- 一 學は五倫五教に基き學問思辨篤行より修身處事接物の要を講明せん事を主とす
- 一 廣く漢注唐疏清儒の經解を採り以て折衷す
- 一 博く國典并に四庫の書類を讀ましむ
- 一 經を講し史を讀むの暇詩を賦し文を作り以て志を述へ材を達せしむ

附式目

- 一 講義 三日^{二字至三字}經史の内隨時
- 一 教授輪番講義諸有司以下出席
- 一 輪講 四八九^{一字至四字}書右に同
- 一 教授輪番會頭有司出席
- 一 素讀 毎朝^{八字至十二字}四書五經左國史漢文選等
- 一 復讀 五十
- 一 教授助教の内當直一人^{八夜至八字}
- 一 寄宿三級生以上許之
- 一 春秋試業 素讀講義
- 一 教授檢査す諸有司出席別に則有り
- 一 書學 毎日^{八字至午後四時}
- 一 塾師六人輪番
- 一 休業 一六
- 一 參事一彦の艸する所を用ふ
- 一 矢部温叟^{教授}等艸する學則左の如し
- 一 教養館學則
- 一 皇國太古有神道其教至簡矣。故中古 明主資西土聖教以明人倫以贊皇猷學者當敬神道而基本其正直崇

聖教而實踐其言行以為忠孝仁義之士也

一 六級 助教

得不可
落第すれば準級に置く可し

一 學者不惟講究經史宜讀 本朝古典

一 四級 一部書講義生

一 譬へは一級生二級の考試に落第すれば其準級と為す。次の考試

歴史亦宜讀和漢兵書

一 三級 五部以上書句讀生

に其業三級に至らば直ちに三級の考試を乞ふ可し。復落第すれば其準級と為す。餘は之に倣へ

一 詩歌文章亦不可闕者然宜以講經讀史之暇為之

一 二級 二部以上書句讀生

右試業略。

史之暇為之

一 一級 一部書句讀生

一 本邦之士素皆武士也。不可專習文而忘武也。所以館中設演武場也。

一 無級 入門生 右坐次

一 六藝中書數則最有用者故各有其師教之童蒙

一 一級生 一部書復讀 賞金一方

一 今日時勢不可不知西洋事情故置其師使蒙士讀洋書

誤一二字者金一片

一 遠州掛川學院以朱氏白鹿洞揭示為學則今於此館亦襲用之

一 二級生 二部以上書復讀 賞金一方一片 誤一二字者金一方

一 遠州掛川學院以朱氏白鹿洞揭示為學則今於此館亦襲用之

一 三級生 五部以上書復讀 賞金二方 誤一二字者金一方一片 以上復讀

一 四級生 一部書講義 賞金三方

誤一二義者金二方

一 五級生 二部以上書講義 賞金一圓一方 誤一二義者金三方 以上講義

短篇如學庸者亦可充一部之數

一 春秋二季試之不誤者及誤一二者賞之有差其餘不與賞 右賞典

一 凡考試を經及第せなければ其級を

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

一 一等教授月金十圓二人小崎門藏

矢部温叟

二等教授月金八圓一人平川一彦

一 二等助教月金六圓一人松崎退藏

大参事掌學事者下同一人 一 少参事一人

権大屬二人 一 権少屬二人

一 聽掌數人

生徒概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 明治三年釐正する館中坐次賞典試業略左の如し

一 凡考試を經及第せなければ其級を

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

一 七級 教授

職名俸禄并職員概數

生徒凡二百八十人増時有内寄宿生二十人 夜學生十人

束脩謝儀

束脩入門之日扇箱を以て之に換ふ謝儀無之。

學館經費

現米七百五十八石六斗四升餘を以て學館一歳の費額と為す。

知事臨館

明治三年三月以來柴山假學館尚書講義之日知事屢々臨み大參事以下従ひ来る。四年松尾新館成り五月十三日初て白鹿洞揭示を講する日より三之日尚書講義知事屢々臨み大參事以下も亦来る。五月廿五日句讀生試業廿七日講義生試業並に知事臨み大參事以下皆来る春季の試業館の成るを待つ故に後六月二日賜賞者講義生五人句讀生二十七人又知事時々洋學所に臨み親ら學ふ。

祭儀

孔聖銅像掛川より遷し、柴山假學館に安置し明治三年八月中丁吐始て釋菜之儀を行ふ。祭器供物皆不具但酒果を

供ふる耳。知事藩士教授生徒禮服し聖像を拜す生徒に果子を與ふ。四年五月八日松尾學館新たに成るを以て釋菜し知事禮拜す前年之儀の如し。

學館構造并圖(参考圖2 松尾學館圖)

學館教養館 西面茅屋衡門教授舍書籍舍寄宿舍附皆在館北并七十九坪 寄宿舍北步廊自廂至洋學所 十八坪 洋學所在館西北寄宿舍附在洋學所西北并八十六坪二合餘書學所在館南四十四坪 病院教生所 南面在館東六十九坪 庖厨在病院北三十三坪二合餘以上五處屋相連續 病院門三坪五合 門東病室三坪 門西病室六坪五合 數學所離在書學所西十八坪五合劔術演場離在館北四十三坪五合 建屋總計四百十二坪 闔境一千二百五十五坪五合

學館藏物

藏版無之 孔聖銅像一厨 藏書掛川學院より移し来る者多く、新たに購むる者あり故に藏書中二冊缺る者有り其種類部數大

凡左の如し

一 國史類 大日本史佗十四種內圖一計 十七部內國史略二部 外史二部

一 經類 十三經注疏佗三十五種 總計五十四部內左傳杜解五部 五經五部 考經四部 書集注六部 會玉篇四部

一 史類 資治通鑑津澤版 十四種內圖一計 二十七部內史記三部 貞觀政要三部 元明史略三部 十八史略七部

一 子類 大學衍義補佗十八種 總計三十一部內漢注蒙求二部 小学山崎點八部 近思錄集解五部

一 集類 唐詩紀佗十三種 總計十五部內文選二部 總計九十九種 百四十四部

廢學後學館及ひ附屬之藏物木更津縣之を舊教授及ひ舊出納課に受けらる舊教授

部温叟受かる所の學館及ひ聖像書籍和籍を木更津縣吏當澤終吉に付度す洋書類者舊出納課之を同人

附録洋學書數學鄉校事略

洋學課程

第一理學初步并文典 素讀

第二地理書或究理書 素讀 旁に文

典 會讀

第三萬國史合衆國史等

素讀

一 素讀 每朝午前

一 會讀 五十午後

一 月終試業

一 休業 一六

一 寄宿來學各適宜を以て之を許す。

右洋學之件は初學之課耳。未學規等を定めず。

一 教員二人 福澤諭吉の門人を備ふ

一 生徒凡四十人 内寄宿生三十人

書學

唯倣字を教ゆるのみに非ず旁ら素

讀復習を聴く

一 書師六人中 村松平石田平左伯庵藏近藤應造吉田牧衛杉山茂夫

一 生徒凡百五十人

算學階級定則

一 加減乗除異乘同除 第一級

一 開平方開立方天元術 第二級

一 鉤股適等術同天元并算顯術 第三級

級

一 量地術 第四級

一 點竄 附九章之内方田より方程迄

一 八章及演段并諸約術等 第五級

一 稽古 每日午後 一 休業 六

回

一 二等教授一人 職差 一 二等助教一人

一 生徒凡百五十人

舊松尾管内郷校所在地名

山邊郡栗生村郷校一个所 助教一

人同村農總兵衛父飯高俊次郎

此校俊次郎嘗て自費を以て之を建つ知

事米十苞を與へ之を賞す

武射郡早船村假郷校一个所 助教一人

新掘村農真野實齋

山邊郡關内村假郷校一个所 助教一人

同村農今關壽郎

右郷校三个處明治四年村民藩費ヲ不仰

自費を以て設く 獨栗生村郷校は四年以前に設く

教授一人本須賀村寄留 東京平民大關

俊佐

助教三人 前教授助教並に知事之を命ず

獨俊佐に俸三人口を與ふ其佗俸無し

學科教科生徒概數等按ふ不可

右松尾藩學に係る

付記

『日本教育史資料 一〜九冊』に紹介されている記事は以下のとおりである。

「舊掛川藩 學制」卷二(一冊)

「舊松尾藩 學制 藩内學事制度概略」

(四冊)

「舊掛川藩 犬塚源次左衛門小傳 小

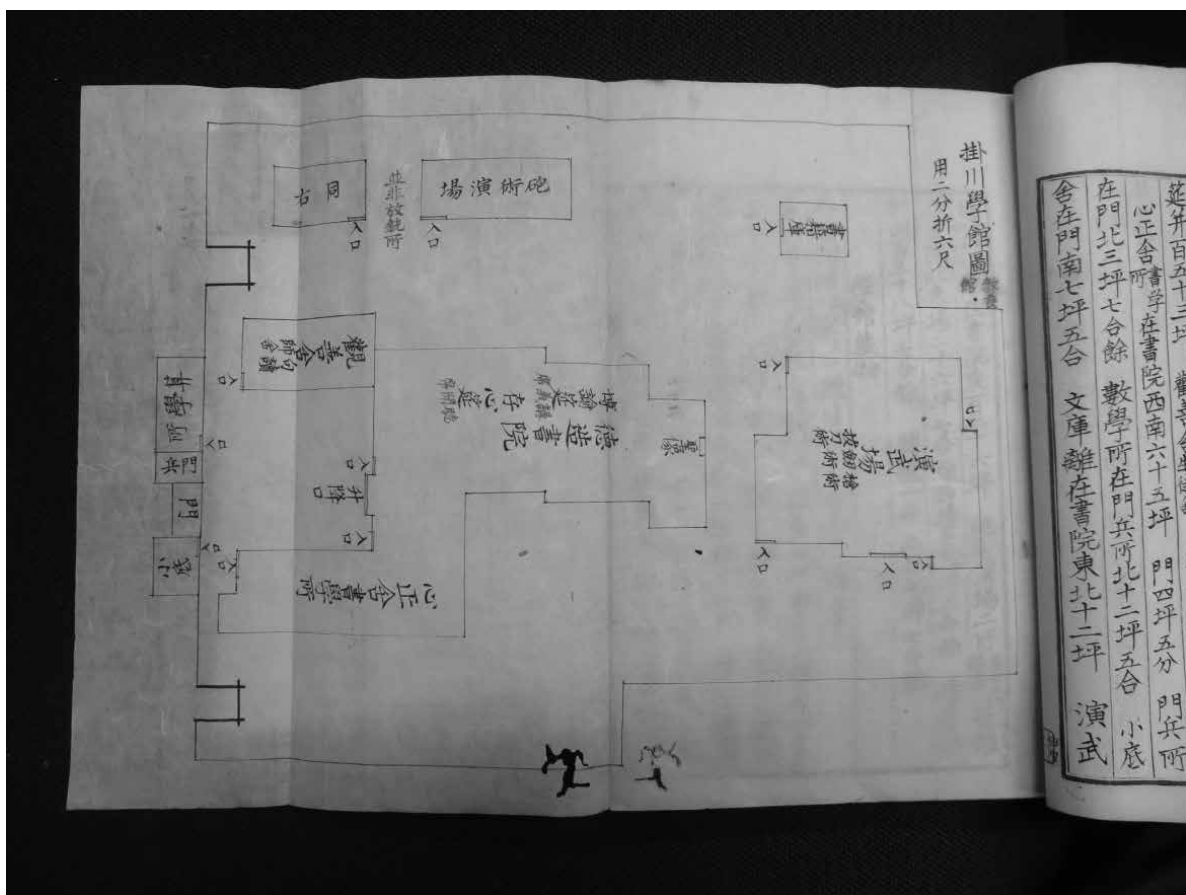
崎門藏傳 松崎慊堂墓表 教授海野豫

介小傳」以上、卷十(四冊)

「舊掛川藩 教養館記 徳造書院記」

卷十四(五冊)

参考图1 掛川學館圖



参考图2 松尾學館圖

